

[2127] 教養科目 自然分野			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
自然科学概論			講義	友田志郎	2年	後期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
2	15	30		2					期末試験 70 有	
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 授業内活動 30 無 その他
	○	—	○	—	—	—	—	—	—	計 100
	フィードバックの方法									
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		人類史 科学技術史 地球史						期末試験については、正答例を示す アクティブラーニングの有無(内容) 無	
授業概要	人類の歴史と科学・技術・知識・知恵の発展との関わりを中心に、自然科学の様々な分野の歩みを幅広く学ぶ									
授業の到達目標	①ヒト種の出現と変遷 ②人類の科学と技術の発展史 ③近代社会と科学の関係 ④地球の歴史・生命の歴史									
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上であること。									
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	ヒト種の歴史。農耕の始まりと家畜化 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	2	ヒトの歴史と科学革命 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	3	最初の科学としての天文学と暦 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	4	宇宙観の歴史 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	5	物質の根源。原子論。近代化学の誕生と発展 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	6	運動と力学 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	7	電気と磁気。原子論の急速な発展 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	8	生物の分類。微生物の発見。生命と自然発生論 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	9	創造論と進化論。生気説と有機合成 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	10	医学と疫病 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	11	動力とエネルギー 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	12	情報。コンピュータの発展 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	13	太陽系と地球・月の成り立ち。 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	14	地球の生命史 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
	15	科学的思考 予習:(分) 復習:(180分) 講義中にノートした内容を再整理し、しっかりと理解する。								
教科書・教材	特になし									
参考書・参考文献等	特になし									
履修上の注意等	試験はノート・資料の持ち込みを前提として行うので、暗記は必要ないが、講義内容をしっかりと理解し、復習時にノートした内容を整理すること。									
実務経験との関連	実務経験の有無	無								

【2135】 教養科目 基礎技術分野			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科				
プレゼンテーション論			講義	友田志郎	2年	前期	こども発達学科				
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択			小学校	幼稚園	保育士		
2	15	30		2							
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、自ら課題へ適用し、その課題を解決する能力》
	—	—	—	○	—	○	—	—	—	—	
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫										①提出された課題作品を互いに見比べ、向上を図る②プレゼンテーションの内容についての講評  <b>アクティブラーニングの有無(内容)</b> 有
	≪汎用的技能≫		情報リテラシー 教材・資料作成能力 コミュニケーションスキル								
	≪態度・志向性≫										
<b>授業概要</b>	コンピュータを用いたプレゼンテーション資料作成のために必要な画像編集・作図能力を身につける。更に、効果的なプレゼンテーションのための資料構成について、演習を通じて実践的に学ぶ。全15回の授業の内、第1～7回は奈良が、第8～15回は友田が担当する。									授業内でコンピュータの操作、プログラムの作成、口頭発表等を行う	
<b>授業の到達目標</b>	①図の制作方法や写真の加工技術を学び、効果的に活用できる能力を養う。 ②音声データの編集処理を行える。 ③基本的な動画編集処理、及び資料説明用の動画作成を行える ④効果的な口頭プレゼンテーションのための資料作成能力を身につける。										
<b>単位認定の要件</b>	すべての課題・レポートが提出されている事。上記①～④の得点合計が60%以上										
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容									
	1	授業の進め方の説明。画像データの編集(1):画像編集ソフト。基本的な編集 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	2	画像データの編集(2):画像の合成 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	3	画像データの編集(3):GIFアニメーション。画像ファイルのフォーマット 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	4	音声データの処理(1):音声編集ソフト。音声の録音と編集 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	5	音声データの処理(2):音楽データの編集 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	6	動画データの処理(1):動画編集ソフト。基本的な動画編集 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	7	PowerPointによる資料作成(1):アニメーション機能 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	8	PowerPointによる資料作成(2):表とグラフの作成 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	9	口頭発表の為の資料作成の基本的留意点。資料の構成と組み立て 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	10	口頭発表演習(1):練習用の口頭発表 グループ1 予習:(120分): 口頭発表の準備をしっかりと行う 復習:(60分): 口頭発表で指摘されたポイントを吟味し、改善点を検討する									
	11	口頭発表演習(2):練習用の口頭発表 グループ2 予習:(120分): 口頭発表の準備をしっかりと行う 復習:(60分): 口頭発表で指摘されたポイントを吟味し、改善点を検討する									
	12	動画データの処理(2):PowerPointを使用した説明用動画の作成方法 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	13	動画データの処理(3):カメラ等を組み合わせた説明用動画の作成方法 予習:(分) 復習:(180分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
	14	口頭発表課題(1):成績評価用口頭発表 グループ1 予習:(120分): 口頭発表の準備をしっかりと行う 復習:(60分): 口頭発表で指摘されたポイントを吟味し、改善点を検討する									
	15	口頭発表課題(2):成績評価用口頭発表 グループ2 予習:(120分): 口頭発表の準備をしっかりと行う 復習:(60分): 口頭発表で指摘されたポイントを吟味し、改善点を検討する									
<b>教科書・教材</b>	特になし										
<b>参考書・参考文献等</b>	特になし										
<b>履修上の注意等</b>	毎回の授業でノートパソコンを持参すること。また、画像・音声・動画などの編集操作の為にマウスが必須である。操作技術修得には毎時間の積み重ねが必要なので、その都度復習することが必要となる。										
<b>実務経験との関連</b>	<b>実務経験の有無</b>	無									

[2145] 外国語科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科							
時事英語 I			演習	杉本久美子	2年	前期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無					
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士						
1	15	30		1					期末試験	70	有			
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力					《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 授業内活動 その他	30	有
	○	○	—	○	—	○	—	—	—	—	○	○	計	100
<b>当該科目のキーワード</b>										期末試験は採点後返却し、解答の説明を行う。授業内活動と提出物についてはその都度内容確認と所見を伝える		<b>アクティブラーニングの有無(内容)</b> 有		
<b>授業概要</b>										様々なメディアを通して発信される世界中のニュースに英語で触れることによって、世界の現状を知る。社会・文化・教育・科学・環境問題など多様な英語に接し、Reading, Listening, Speaking, Writingといった英語運用能力を多角的に培えるようにする。		授業内での書き取り、英文和訳等		
<b>授業の到達目標</b>										時事英語の特性を理解し、ニュース英語の基礎的知識を習得する。媒体によって異なる英語の特性を把握し、ニュース内容を把握する基礎的能力を身につける。				
<b>単位認定の要件</b>										期末試験(70%)授業内活動(30%)の合計が60点以上で単位認定とする。				
										<b>回</b>		<b>内 容</b>		
										1	授業概要説明(使用テキスト、授業展開方法、成績評価方法について)Unit 1 導入 予習:(30分) 使用テキストの内容確認。※2回目以降授業内にて指示。 復習:(30分) 本時の学習内容の復習と定着を図る。※各回同様。			
										2	Unit1: Studying in the Metaverse メタバース学習塾 ① ※①②は語彙/視聴/書き取り等。③は本文内容確認問題含む。 予習:(30分) 復習:(30分)			
										3	Unit1: Studying in the Metaverse メタバース学習塾 ② 予習:(30分) 復習:(30分)			
										4	Unit1: Studying in the Metaverse メタバース学習塾 ③ 予習:(30分) 復習:(30分)			
										5	Unit2: Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage 人材不足で英語公用語 ① 予習:(30分) 復習:(30分)			
										6	Unit2: Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage 人材不足で英語公用語 ② 予習:(30分) 復習:(30分)			
										7	Unit2: Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage 人材不足で英語公用語 ③ 予習:(30分) 復習:(30分)			
										8	Unit3: Recycling Car Parts Into Fashion Treasure エアバッグが洋服に ① 予習:(30分) 復習:(30分)			
										9	Unit3: Recycling Car Parts Into Fashion Treasure エアバッグが洋服に ② 予習:(30分) 復習:(30分)			
										10	Unit3: Recycling Car Parts Into Fashion Treasure エアバッグが洋服に ③ 予習:(30分) 復習:(30分)			
										11	Unit4: Japanese Family Steps Up to Support Evacuee ウクライナ避難者に寄りそう ① 予習:(30分) 復習:(30分)			
										12	Unit4: Japanese Family Steps Up to Support Evacuee ウクライナ避難者に寄りそう ② 予習:(30分) 復習:(30分)			
										13	Unit4: Japanese Family Steps Up to Support Evacuee ウクライナ避難者に寄りそう ③ 予習:(30分) 復習:(30分)			
										14	Unit 5: Mixing Art With Online Meetings ズームアーティスト、松岡智子 ① 予習:(30分) 復習:(30分)			
										15	Unit 5: Mixing Art With Online Meetings ズームアーティスト、松岡智子 ② 前期授業総括 予習:(30分) 復習:(30分)			
<b>教科書・教材</b>										『NHK NEWSLINE 7』山崎達郎・Stella M. Yamazaki 編著 KINSEIDO ¥2500+税				
<b>参考書・参考文献等</b>										特になし。				
<b>履修上の注意等</b>										メディア英語は難しいですが、授業内活動に関しては受け身にならず、積極的に取り組むこと。				
<b>実務経験との関連</b>										実務経験の有無	無			

[2146] 外国語科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
時事英語Ⅱ			演習	杉本久美子	2年	後期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
1	15	30		1					期末試験 70 有	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	<b>《知識・理解》</b> 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		<b>《汎用的技能》</b> コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			<b>《態度・志向性》</b> 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に活用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》
	○	○	—	○	—	○	—	—	—	○
<b>当該科目のキーワード</b>	<b>《知識・理解》</b>		時事問題に関してメディア英語を通して理解を深める。							期末試験は採点后返却し、解答の説明を行う。授業内活動と提出物についてはその都度内容確認と所見を伝える。
	<b>《汎用的技能》</b>		時事英語の特性およびICTの活用による情報獲得能力を身につける。							
	<b>《態度・志向性》</b>		生涯にわたって英語を学ぶ姿勢と方法を習得する。							<b>アクティブラーニングの有無(内容)</b> 有
<b>授業概要</b>	様々なメディアを通して発信される世界中のニュースに英語で触れることによって、世界の現状を知る。社会・文化・教育・科学・環境問題など多様な英語に接し、Reading, Listening, Speaking, Writingといった英語運用能力を多角的に培えるようにする。								授業内での書き取り、英文和訳等	
<b>授業の到達目標</b>	時事英語の特性を理解し、ニュース英語の基礎的知識を習得する。媒体によって異なる英語の特性を把握し、ニュース内容を把握する基礎的能力を身につける。									
<b>単位認定の要件</b>	期末試験(70%)授業内活動(30%)の合計が60点以上で単位認定とする。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	授業概要説明(使用テキスト、授業展開方法、成績評価方法について) 前期学習内容の確認 Unit 6 導入 予習:(30分) 前期学習内容の確認 ※2回目からは授業内にて指示。 復習:(30分) 本時の学習内容の復習と定着を図る。※各回同様。								
	2	Unit 6: Deer Ramen 山梨ジビエラーメン ① ※①語彙/視聴/書取り/内容把握等 ②本文内容確認問題含む。 予習:(30分) 復習:(30分)								
	3	Unit 6: Deer Ramen 山梨ジビエラーメン ② ※授業内活動は以下上記同上 予習:(30分) 復習:(30分)								
	4	Unit 6: Deer Ramen 山梨ジビエラーメン ③ 予習:(30分) 復習:(30分)								
	5	Unit 7: Making Sure the Message Is Heard 英語で語り継ぐ ① 予習:(30分) 復習:(30分)								
	6	Unit 7: Making Sure the Message Is Heard 英語で語り継ぐ ② 予習:(30分) 復習:(30分)								
	7	Unit 7: Making Sure the Message Is Heard 英語で語り継ぐ ③ 予習:(30分) 復習:(30分)								
	8	Unit 8: Think Globally, Graze Locally 飼料高騰にライ麦 ① 予習:(30分) 復習:(30分)								
	9	Unit 8: Think Globally, Graze Locally 飼料高騰にライ麦 ② 予習:(30分) 復習:(30分)								
	10	Unit 8: Think Globally, Graze Locally 飼料高騰にライ麦 ③ 予習:(30分) 復習:(30分)								
	11	Unit 9: A Sea Turtle's Tale ウミガメの絵本 ① 予習:(30分) 復習:(30分)								
	12	Unit 9: A Sea Turtle's Tale ウミガメの絵本 ② 予習:(30分) 復習:(30分)								
	13	Unit 9: A Sea Turtle's Tale ウミガメの絵本 ③ 予習:(30分) 復習:(30分)								
	14	Unit 10: "Robot Cafe" Showcases AI's Potential 自販機で示すAIの可能性 ① 予習:(30分) 復習:(30分)								
	15	Unit 10: "Robot Cafe" Showcases AI's Potential 自販機で示すAIの可能性 ② 後期授業総括 予習:(30分) 復習:(30分)								
<b>教科書・教材</b>	『NHK NEWSLINE 7』山崎達郎・Stella M. Yamazaki 編著 KINSEIDO ¥2500+税									
<b>参考書・参考文献等</b>	特になし。									
<b>履修上の注意等</b>	メディア英語は難しいですが、授業内活動に関しては受け身にならず、積極的に取り組むこと。									
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無								

【2147】 外国語科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科								
ドイツ語 I			演習	齋藤義彦	2年	前期	こども発達学科								
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無					
			必修	選択			小学校	幼稚園	保育士						
1	15	30		1						期末試験 60 有					
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート			
	○	○	—	○	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫ 異文化の理解		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル								期末試験は答案と模範解答を一緒に返却。小テストやレポートは採点し返却、授業中に解説。				
	≪態度・志向性≫										アクティブラーニングの有無(内容)	有			
<b>授業概要</b>	初級ドイツ語文法の理解を踏まえ、初級ドイツ語会話に相当するコミュニケーション能力の習得を目的とする。またビデオ教材の併用によって、視覚的効果を利用した口答練習を中心とした。ビデオ教材で作出された疑似ドイツ語空間を大いに利用できる演習とした。									対話型コミュニケーション教員—学生 学生—学生					
<b>授業の到達目標</b>	①名詞の格変化 ②規則動詞の人称変化 ③不規則動詞の人称変化 ④自己紹介 ⑤買物物の表現 ⑥話法の助動詞を用いた表現														
<b>単位認定の要件</b>	授業到達目標の理解が60%以上で合格。														
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容													
	1	Lektion 0「あかざたなはまやらヴァム」、ドイツ語の読み方 予習復習については履修上の注意を参照。以下同じ。													
	2	Lektion 1「こんにちは、ミュンヘン」、人称代名詞と動詞の現在人称変化、音読練習 予習:(分) 復習:(分)													
	3	Lektion 1 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)													
	4	Lektion 2「クラウディア、町へ行く」、定冠詞・不定冠詞・所有冠詞、音読練習 予習:(分) 復習:(分)													
	5	Lektion 2 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)													
	6	Lektion 3「住居共同体」、不規則動詞の現在人称変化、音読練習 予習:(分) 復習:(分)													
	7	Lektion 3 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)													
	8	Lektion 1～Lektion 3までの復習、別冊問題集 予習:(分) 復習:(分)													
	9	Lektion 4「ザルツブルクへの旅」、指示代名詞、分離動詞の現在人称変化、音読練習 予習:(分) 復習:(分)													
	10	Lektion 4 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)													
	11	Lektion 5「ミヒャエルの一日」、前置詞の格支配、人称代名詞、音読練習 予習:(分) 復習:(分)													
	12	Lektion 5 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)													
	13	Lektion 6「オリンピアパークにて」、話法の助動詞、音読練習 予習:(分) 復習:(分)													
	14	Lektion 6 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)													
15	Lektion4～Lektion 6までの復習、別冊問題集 予習:(分) 復習:(分)														
<b>教科書・教材</b>	教科書:関ロー郎著『ハロー・ミュンヘン・ノイ』(白水社)														
<b>参考書・参考文献等</b>	特になし														
<b>履修上の注意等</b>	予習・復習時には必ず音読すること。授業中には、常に声を出すことが要求される。レポートの様式は、縦A4版横書きでお願いします。予習:(30分)授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。復習:(15分)授業内容について振り返りを行う。														
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無													

【2148】 外国語科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科							
ドイツ語Ⅱ			演習	齋藤義彦	2年	後期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無				
			必修	選択			小学校	幼稚園	保育士					
1	15	30		1						期末試験 60 有				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、自ら課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート		
	○	○	—	○	—	—	—	—	—	—		—	—	—
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		異文化の理解								期末試験は答案と模範解答を一緒に返却。小テストやレポートは採点し返却、授業中に解説。			
	≪汎用的技能≫		コミュニケーションスキル											
<b>授業概要</b>	≪態度・志向性≫										アクティブラーニングの有無(内容)	有		
	前期で学習したドイツ語に加えて、後期も初級ドイツ語の文法の理解と初級ドイツ語会話に相当するコミュニケーション能力の習得を目的とする。またビデオ教材の併用によって、視聴覚的效果を利用した口答練習を中心とした。ビデオ教材で作り出された疑似ドイツ語空間を大いに利用できる演習をしたい。										対話型コミュニケーション教員—学生 学生—学生			
<b>授業の到達目標</b>	①形容詞の格変化 ②基本形 ③動詞の過去人称変化 ④現在完了形 ⑤日常の計画や出来事などの説明 ⑥週末の過ごし方の表現													
<b>単位認定の要件</b>	授業到達目標の理解が60%以上で合格。													
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容												
	1	Lektion 7 “買物”、形容詞の格変化、形容詞の比較変化、音読練習 予習復習については履修上の注意を参照。以下同じ。												
	2	Lektion 7 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)												
	3	Lektion 8 “週末には”、動詞の三基本形、過去と現在完了、音読練習 予習:(分) 復習:(分)												
	4	Lektion 8 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)												
	5	Lektion 7～Lektion 8までの復習、別冊問題集 予習:(分) 復習:(分)												
	6	Lektion 9 “ベルリンについて”、文語の過去、受動文、音読練習 予習:(分) 復習:(分)												
	7	Lektion 9 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)												
	8	Lektion 10 “ドイツ博物館”、再帰代名詞と再帰動詞、zu不定詞句、音読練習 予習:(分) 復習:(分)												
	9	Lektion 10 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)												
	10	Lektion 9～Lektion 10までの復習、別冊問題集 予習:(分) 復習:(分)												
	11	Lektion 11 “ルートヴィヒ2世”、関係代名詞、不定関係代名詞、音読練習 予習:(分) 復習:(分)												
	12	Lektion 11 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)												
	13	Lektion 12 “さようなら!”、接続法第1式、接続法第2式、音読練習 予習:(分) 復習:(分)												
	14	Lektion 12 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題 予習:(分) 復習:(分)												
	15	Lektion 10～Lektion 12までの復習、別冊問題集 予習:(分) 復習:(分)												
<b>教科書・教材</b>	教科書:関ロー郎著『ハロー・ミュンヘン・ノイ』(白水社)													
<b>参考書・参考文献等</b>	特になし													
<b>履修上の注意等</b>	予習・復習時には必ず音読すること。授業中には、常に声を出すことが要求される。レポートの様式は、縦A4版横書きをお願いします。予習:(30分)授業内容について事前に与える。内容はその前の回に伝える。 復習:(15分)授業内容について振り返りを行う。													
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無												

[2149] 外国語科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
フランス語 I			演習	工藤貴子	2年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士				
1	15	30		1					期末試験 80 有			
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート		
	○	○	○	○	—	○	○	○		—	○	○
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫ フランス語のしくみと文化の理解		≪汎用的技能≫ フランス語を介した情報交換と論理的思考			≪態度・志向性≫ ペア・グループワークを通じた他者や多文化への関心			期末試験答案は模範解答と共に返却、小テストや提出課題は次回授業で返却し、解答の解説を行う			
	≪知識・理解≫ フランス語のしくみと文化の理解		≪汎用的技能≫ フランス語を介した情報交換と論理的思考			≪態度・志向性≫ ペア・グループワークを通じた他者や多文化への関心			アクティブラーニングの有無(内容) 有			
	≪知識・理解≫ フランス語のしくみと文化の理解		≪汎用的技能≫ フランス語を介した情報交換と論理的思考			≪態度・志向性≫ ペア・グループワークを通じた他者や多文化への関心			有			
<b>授業概要</b>	コミュニケーションに役立つ表現を学習の中心に据え、それを正しく運用するための基礎的な文法を同時に身につけます。また、語学学習は異文化や他者へと開く窓でもあります。フランスの情報や文化紹介が豊富なテキストを用いて、自分自身や自国の文化を見直し、今まで持っていたフランスのイメージを更新することも目指します。								グループワーク、発見学習、グループディスカッション			
<b>授業の到達目標</b>	「自己紹介をする」「他者にプロフィールを聞く」「家族構成を説明する」などのテーマを通して、フランス語の基礎的な文法と会話表現が身につくようになります。また、映像や写真、データを通して、フランス事情、とりわけ子供の食育や少子化克服の背景、子育てに関する教育概念全般についても理解を深めます。											
<b>単位認定の要件</b>	授業内での活動評価点、適宜行う小テストの平均点、期末試験の合計が60点以上であること。											
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	名前を言う、日常よく使われる短い表現を学ぶ／アルファベ 予習:(10分)テキスト16-17ページ「フランス語とフランスに関する基礎知識」についてクイズに答える 復習:(35分) アルファベを言えるようになる										
	2	他者の名前とスベルを言う／アルファベの定着 予習:(15分)テキスト10ページ「挨拶の表現」CDを聴き音読 復習:(30分) アルファベの音読と名前を聞く・言う表現定着										
	3	国籍を言う／国籍の女性形の作り方 予習:(15分)第1課ディアログ内容理解 復習:(30分) 国籍の女性形作り定着										
	4	主語人称代名詞、動詞 être 活用練習と応用表現 予習:(15分)テキスト15ページ「国籍一覧表の記入、第1課ディアログ暗唱 復習:(30分) 活用練習問題										
	5	職業を言う／動詞 être 復習、職業の女性形の作り方 予習:(30分)第2課ディアログ内容理解、動詞 être 活用小テスト準備 復習:(15分) テキスト18ページ「職業一覧表の記入										
	6	話せる言語を言う／第一群規則動詞活用練習 予習:(15分)第2課ディアログ音読 復習:(30分) 第一群規則動詞活用表の記入										
	7	住んでいるところを言う／第一群規則動詞(発音中心に練習) 予習:(15分)第2課ディアログ暗唱 復習:(30分) 第一群規則動詞音読と活用問題演習										
	8	家族構成を言う／動詞 avoir 活用 予習:(30分)第4課ディアログ内容理解、第一群規則動詞小テスト準備 復習:(15分) 兄弟構成説明の作文										
	9	家族構成を言う／不定冠詞と名詞の性 予習:(15分)第4課ディアログ音読 復習:(30分) 不定冠詞問題演習										
	10	年齢を言う／動詞 avoir 復習 予習:(20分)数字1-39 復習:(25分) avoir 活用練習問題										
	11	動詞 avoir の応用表現(体調、慣用表現など) 予習:(15分)avoir 小テスト準備 復習:(30分) 体調を言う表現音読										
	12	否定文の作り方 予習:(15分)第4課ディアログ暗唱 復習:(30分) 否定文問題演習										
	13	好みを言う 予習:(15分)第3課ディアログ内容理解と音読 復習:(30分) 第一群規則動詞活用と発音復習										
	14	定冠詞の種類とその用法 予習:(10分)第3課ディアログ暗唱 復習:(35分) 定冠詞と不定冠詞の使い分け問題演習										
	15	フランス語で自己紹介する 予習:(20分)第1~4課ディアログ音読 復習:(25分) 自己紹介文暗唱										
<b>教科書・教材</b>	田辺保子ほか著、F comme français『トライ！フランス語』(駿河台出版社)											
<b>参考書・参考文献等</b>	中島さおり『哲学する子どもたち』(河出書房新社)、中島さおり『なぜフランスでは子どもが増えるのか』(講談社現代新書)、高崎順子『フランスはどう少子化を克服したか』(新潮新書)、「仏語関連:清岡智比古」ハートにビビッとフランス語!(NHK出版)、『フランス語をひとつひとつわかりやすく』(学研教育出版)											
<b>履修上の注意等</b>	①授業理解の補足になるよう、プリントも適宜配布しますのでその整理を怠らないようにしましょう。②教室に「いる」だけでは参加したことになりません。皆さんとの対話を重視しながら授業を進めますので、疑問や意見があれば発言し、問題提起をしてください。											
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無										

【2150】 外国語科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
フランス語 II			演習	工藤貴子	2年	後期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士				
1	15	30		1					期末試験 80 有			
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート		
	○	○	○	○	—	○	○	○		—	○	○
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫ フランス語のしくみと文化の理解		≪汎用的技能≫ フランス語を介した情報交換と論理的思考			≪態度・志向性≫ ペア・グループワークを通して他者や多文化への関心			期末試験答案は模範解答と共に返却、小テストや提出課題は次回授業で返却し、解答の解説を行う			
	≪知識・理解≫ フランス語のしくみと文化の理解		≪汎用的技能≫ フランス語を介した情報交換と論理的思考			≪態度・志向性≫ ペア・グループワークを通して他者や多文化への関心			アクティブラーニングの有無(内容) 有			
	≪知識・理解≫ フランス語のしくみと文化の理解		≪汎用的技能≫ フランス語を介した情報交換と論理的思考			≪態度・志向性≫ ペア・グループワークを通して他者や多文化への関心			有			
<b>授業概要</b>	コミュニケーションに役立つ表現を学習の中心に据え、それを正しく運用するための基礎的な文法を同時に身につけます。また、語学学習は異文化や他者へと開く窓でもあります。フランスの情報や文化紹介が豊富なテキストを用いて、自分自身や自国の文化を見直し、今まで持っていたフランスのイメージを更新することも目指します。								グループワーク、発見学習、グループディスカッション			
<b>授業の到達目標</b>	「家族の紹介をする」「時刻を尋ねる」「行きたいところを言う」など日常のありふれた場面で遭遇しそうな身近なテーマを通して、フランス語の基礎的文法と会話表現が身につくようになります。また、映像や写真、データを通して、フランス事情、とりわけ子供の食育や少子化克服の背景、子育てに関する教育概念全般についても理解を深めます。											
<b>単位認定の要件</b>	授業内での活動評価点、適宜行う小テスト、期末試験の合計が60点以上であること。											
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	前期内容の復習、他者の外見や性格を知る／形容詞の性の一致、付加形容詞の位置(原則) 予習:(30分)前期内容(とくに動詞活用)の復習、第5課ディアログ内容理解 復習:(15分)第5課ディアログ音読										
	2	自分の外見・性格を説明する／形容詞の性数の一致、付加形容詞の位置(例外) 予習:(25分)第5課ディアログ音読、自分の外見、性格の紹介文作成 復習:(20分)形容詞の問題演習										
	3	付加形容詞まとめ、自分の家族を紹介する／所有形容詞「私の」 予習:(15分)第5課ディアログ音読と暗唱 復習:(30分)家族の単語を覚える										
	4	他者の家族について聞く、話す／所有形容詞「君の」「彼女の」 予習:(15分)家族の単語小テスト準備 復習:(30分)自分の家族を口頭で紹介する										
	5	所有形容詞まとめ、問題演習 予習:(15分)家族のメンバー紹介練習 復習:(30分)練習問題を再度解く										
	6	行きたいところを言う／動詞 aller 活用、定冠詞(復習)、前置詞 à と定冠詞の縮約(口頭練習) 予習:(15分)第6課ディアログ内容理解 復習:(30分)動詞 aller 活用練習										
	7	行きたいところを言う／前置詞 à と定冠詞の縮約(問題演習)、動詞 venir 活用 予習:(20分)第6課ディアログ音読、aller 活用小テスト準備 復習:(25分)前置詞 à と定冠詞の縮約練習問題を再度解く										
	8	星占いを読む／近接未来、近接過去 予習:(15分)第7課ディアログ内容理解 復習:(30分)第7課ディアログ音読と暗唱										
	9	部分冠詞、動詞« vouloir »活用 予習:(10分)第8課ディアログ内容理解 復習:(35分)部分冠詞の使い方の理解、「« vouloir »」活用練習										
	10	部分冠詞と不定冠詞の違い、動詞« prendre »活用 予習:(20分)« vouloir »活用小テスト準備 復習:(25分)不定冠詞と部分冠詞問題演習										
	11	料理のレシピを読む／命令形 予習:(20分)« prendre »活用小テスト準備 復習:(25分)命令形問題演習										
	12	時間を尋ねる、言う 予習:(20分)数字1—59復習 復習:(25分)時刻を言う練習										
	13	時刻を言う／数字を使わない「～分」の言い方 予習:(15分)第9課ディアログ内容理解 復習:(30分)時刻を言う練習										
	14	天候を尋ねる、言う／非人称構文 予習:(15分)第9課ディアログ音読 復習:(30分)天候を言う表現の暗唱										
	15	天候を尋ねる、言う／疑問形容詞 予習:(15分)第9課ディアログ暗唱 復習:(30分)第9課総復習(天候・時刻表現、疑問形容詞・非人称構文)										
<b>教科書・教材</b>	田辺保子ほか著、F comme français『トライ！フランス語』(駿河台出版社)											
<b>参考書・参考文献等</b>	中島さおり『哲学する子どもたち』(河出書房新社)、中島さおり『なぜフランスでは子どもが増えるのか』(講談社現代新書)、高崎順子『フランスはどう少子化を克服したか』(新潮新書)、「仏語関連:清岡智比古」ハートにビビッとフランス語!(NHK出版)、『フランス語をひとつひとつわかりやすく』(学研教育出版)											
<b>履修上の注意等</b>	①授業理解の補足になるよう、プリントも適宜配布しますのでその整理を怠らないようにしましょう。②教室に「いる」だけでは参加したことになりません。皆さんとの対話を重視しながら授業を進めますので、疑問や意見があれば発言し、問題提起をしてください。											
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無										



【2204】 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
教育課程論			講義	森本洋介	2年	前期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
2	15	30	2			○	○		期末試験	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に自ら設定し、その課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート 60 有 授業内小テスト 授業内提出物 授業内活動 40 有 その他
	○ ○ ○		○ — — — ○			○ ○ — ○ ○ —			○	計 100
										フィードバックの方法
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		学習指導要領 資質・能力、見方・考え方 協働力						期末レポートは採点后に返却する。授業内活動では授業の最後の5分をフィードバックを行う時間にする。 アクティブラーニングの有無(内容) 有	
授業概要	教育課程の本質と目的、理念に加えて、近現代の教育内容・教育課程の歩み、特に戦後日本のナショナルカリキュラムである「学習指導要領」の変遷を概観し、理解を深めていくことを通して、日々の教育実践の中で教育課程を如何に編成し、如何に行い、如何に評価、改善していくべきかを考察していく。また、教育課程の新たな内容や、主体的な学び方について実践的に取り扱う。							グループワーク、探究学習		
授業の到達目標	近現代の教育内容・教育課程(カリキュラム)の歩み(主に「学習指導要領」の変遷を中心に)とその意義を概観し、それをもとに現在の教育課程編成の原理と今後のあり方について理解を深める。また、近年重要視されている教科横断的な教育課程について、体験的に学習し、理解を深める。									
単位認定の要件	到達目標の理解が60%以上であること。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	オリエンテーション 予習:(00分) 復習:(180分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。自分で興味のあることについて調べる。								
	2	カリキュラムとは何か 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	3	学習指導要領の変遷(戦後～教育の現代化) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	4	学習指導要領の変遷(ゆとり教育～生きる力) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	5	新学習指導要領の内容 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	6	今日の学力観(PISA型学力)と教育課程 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	7	「学力低下」論 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	8	教育課程の編成原理・条件 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	9	教育課程経営とカリキュラム・マネジメント 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	10	特別活動、総合的な学習の時間、道徳教育 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	11	諸外国の教育課程①(英国、米国、中国、韓国) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	12	諸外国の教育課程②(フィンランド、カナダ) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	13	教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程①(メディア・リテラシー) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	14	教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程②(環境教育・SDGs) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
	15	教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程③(国際理解教育) 予習:(90分) 当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。								
教科書・教材	特になし									
参考書・参考文献等	適宜指示する。									
履修上の注意等	グループ活動が基本となるため、遅刻・欠席は厳禁とする。									
実務経験との関連	実務経験の有無	無								



[2210] 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科							
声乐Ⅱ			演習	諏訪才子	2年	後期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無					
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士							
			1					□		期末試験				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的 理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーション スキル 数量的 スキル 情報リテラシ 論理的 思考力 問題 解決力			≪態度・志向性≫ 自己 管理力 チーム ワーク リー ダー シップ 倫理 観 社会的 責任 生涯 学習 力					《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート		
											授業内小テスト	70	有	
											授業内提出物			
											授業内活動	20	有	
										その他	10	有		
										計	100			
										フィードバックの方法				
<b>当該科目の キーワード</b>	≪知識・理解≫ 声乐発声法、楽曲解釈、演奏法、音楽理論		≪汎用的技能≫ 歌唱表現、自己評価、独唱・重唱・合唱（課題発見・解決）			≪態度・志向性≫ 独唱・斉唱・合唱（自律性・協働、多様な音楽文化に対する関心・理解、表現の工夫・創造）					授業内発表・独唱発表試験の自己 評価、講評及び振り返りレクシ ン、 合唱発表の講評及び振り返りを行 う。			
<b>授業概要</b>	声乐教則本コンコーネ50番による基礎練習と日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲の歌唱により、発声法、楽曲解釈、演奏表現・マナー等の理論と実践について理解を深め、定着させる。また、作品研究や楽曲分析を通して、楽曲への理解を深めるとともに音楽理論を音楽表現へとつなげ、実践的応用力を身につける。受講生の伴奏による独唱および合唱発表(受講生の指揮・伴奏)を行い、学校教育の歌唱活動全般における実践力、指導力の向上を図る。									グループディスカッション、グルー プワーク、グループ発表				
<b>授業の 到達目標</b>	歌唱は、音楽表現および音楽活動全般の基礎となる。 ①歌唱の基礎技術で説明する声乐発声法の理論について説明し、実践することができる。 ②作品研究や楽曲分析を通して、楽曲への理解を深めるとともに音楽理論を音楽表現へとつなげることができる。 ③日本歌曲や外国歌曲の独唱および合唱を通して、学校教育の歌唱活動全般における総合的な歌唱技術・表現力、指導力を向上させる。													
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上となること。													
<b>授業計画 (予習、復習の内容 内容・時間含む)</b>	回	内 容												
	1	発声(声種) コンコーネNo.6～10 ドイツ歌曲唱法 予習:(25分)発声のためのウォーミングアップ、発声練習を行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	2	発声(選曲) コンコーネNo.6～10 Ich liebe dich他 予習:(25分)授業で予定している歌唱曲の譜読み、歌唱練習を行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	3	発声練習(伴奏法) コンコーネNo.6～10 日本歌曲唱法 予習:(25分)授業で予定している歌唱曲の譜読み、歌唱練習を行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	4	発声(暗譜) コンコーネNo.6～10 浜辺の歌他 予習:(25分)授業で予定している歌唱曲の譜読み、歌唱練習を行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	5	発声(伴奏合わせ) 任意のイタリア歌曲 1 読譜 予習:(25分)歌唱曲の譜読みを中心に練習する。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	6	発声(ステージマナー) 任意のイタリア歌曲 2 歌詞 予習:(25分)歌唱曲の譜読み、歌詞の発音に留意して歌唱練習を行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	7	発声(声の衛生) 任意のイタリア歌曲 3 歌唱表現 予習:(25分)歌唱曲の音楽表現を工夫して歌唱練習を行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	8	芸術鑑賞 日本の伝統音楽 予習:(25分)日本の音楽について、下調べを行う。 復習:(0分)												
	9	合唱1 パート練習 予習:(30分)合唱曲のパート練習を中心に練習する。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	10	合唱2 ハーモニー作り 予習:(30分)合唱曲のハーモニー作りを中心に練習する。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	11	合唱3 音楽表現・まとめ 予習:(30分)合唱曲の音楽表現を工夫して練習する。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	12	任意の歌曲 1 伴奏合わせ 予習:(25分)任意の歌曲の伴奏合わせを行う。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	13	任意の歌曲 2 歌唱表現 予習:(25分)任意の歌曲の音楽表現を工夫して練習する。 復習:(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。												
	14	任意の歌曲 3 独唱発表 予習:(25分)歌唱曲の暗譜、伴奏合わせをし、総合的に仕上げる。 復習:(20分)演奏発表を振り返り、今後の課題と練習方法・計画についてまとめる。												
	15	合唱発表 予習:(30分)合唱曲を暗譜し、総合的に仕上げる。 復習:(20分)演奏発表を振り返り、今後の課題と練習方法・計画についてまとめる。												
<b>教科書・教材</b>	声乐教則本「コンコーネ50番」中声用 畑中良輔編(全音楽譜出版社)、「独唱名曲100選」(音楽之友社)													
<b>参考書・ 参考文献等</b>	適宜、指示する。													
<b>履修上の 注意等</b>	コンサート・CD等で音楽鑑賞をすること。													
<b>実務経験との 関連</b>	実務経験 の有無	有	中学校・高等学校の音楽の授業における歌唱活動(合唱を含む)、式歌、及び合唱部等の指導経験を活かして、学校教育の歌唱活動全般における実践力、指導力の基礎の定着を図る。											

[2234] 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
ICTの基礎			演習	友田志郎	2年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			必修	選択			小学校	幼稚園	保育士			
1	15	30		1			☆	☆				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に活用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末試験 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 50 有 授業内活動 50 無 その他 計 100 フィードバックの方法	
	—		○	—	○	○	○	—	—	—		○
	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫		教材・資料作成能力 プログラミング									提出課題についての講評を授業内で行う
	≪態度・志向性≫											アクティブラーニングの有無(内容) 有
	<b>授業概要</b> 初等教育の場でのICT(情報通信技術)利用という点を主眼に据え、単にアプリケーションソフトの使い方を学ぶのではなく、教材作成・資料作成のための実践的な演習を行う。また、プログラミングの基礎を学び、簡単なプログラム作成を行う											授業内でコンピュータの操作、プログラムの作成等を行う
<b>授業の到達目標</b> ①画像編集が自由に行える。 ②音声データの編集が自由に行える ③プログラミングの基礎を理解する												
<b>単位認定の要件</b>		到達目標①～③の合計が60点以上であること。										
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)		回	内 容									
		1	画像データの編集(1):画像編集ソフト。基本的な編集 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		2	画像データの編集(2):画像の合成 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		3	画像データの編集(3):様々な領域指定方法を用いた画像合成 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		4	画像データの編集(4):フォトタッチ 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		5	画像データの編集(5):GIFアニメーション。画像フォーマット 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		6	音声データの処理(1):音声の録音と編集 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		7	音声データの処理(2):音声データの編集。さまざまなエフェクト 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		8	音声データの処理(3):音楽データの編集 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		9	Scratchを用いたプログラミング入門(1) 基本的操作 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		10	Scratchを用いたプログラミング入門(2) アルゴリズム・変数・メッセージ 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		11	Scratchを用いたプログラミング入門(3) サンプルゲーム作成 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		12	Scratchを用いたプログラミング入門(4) サンプルゲームを完成させる 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		13	Scratchを用いたプログラミング入門(5) 線画グラフィック 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		14	Scratchを用いたプログラミング入門(6) タートルグラフィック 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
		15	Scratchを用いたプログラミング入門(7) リストとソートアルゴリズム 予習:(分) 復習:(45分):授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること									
<b>教科書・教材</b>		特になし										
<b>参考書・参考文献等</b>		特になし										
<b>履修上の注意等</b>		毎回の授業でノートパソコンを持参すること。また、画像・音声・動画などの編集操作のにはマウスが必須である。操作技術修得には毎時間の積み重ねが必要なので、その都度復習することが必要となる。										
<b>実務経験との関連</b>		実務経験の有無	無									

[2235] 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
ICT活用法			演習	友田志郎	2年	後期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			必修	選択			小学校	幼稚園	保育士			
1	15	30		1			☆	☆				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的 理解		≪汎用的技能≫ コミュニケーション スキル				≪態度・志向性≫ 自己管理力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に活用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	
	多文化・異文化	文化・社会・自然	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力						
	—	—	○	—	○	○	○	—	—	—		○
	—	—	—	○	—	○	○	—	—	—		○
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		≪汎用的技能≫ 教材・資料作成能力 プログラミング プレゼンテーション				≪態度・志向性≫				期末試験 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 50 有 授業内活動 50 無 その他	
<b>授業概要</b>	前期開講の「ICTの基礎」に引き続き、初等教育の場でのICT(情報通信技術)利用、及びプログラミング教育への対応という点を主眼に据え、教材作成やプレゼンテーションに必要な技能、基礎的なプログラミングについて習得する。									授業内でコンピュータの操作、プログラムの作成等を行う		
<b>授業の到達目標</b>	①プログラミング技術を用いた教材作成ができる ②プレゼンテーション資料作成ができる ③様々なソフトを利用して、動画資料を作成・編集できる											
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上であること。											
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	Scratchを用いたプログラミング実践(1) 算数教材プログラム作成。スプライトとコスチューム。 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	2	Scratchを用いたプログラミング実践(2) 算数教材プログラムの作成。基本的な動作の部分 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	3	Scratchを用いたプログラミング実践(3) 算数教材プログラムの作成。スプライトの動きの作成。 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	4	Scratchを用いたプログラミング実践(4) 算数教材プログラムを完成させる 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	5	Scratchを用いたプログラミング実践(5) 拡張機能(音声合成・言語翻訳) 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	6	Scratchを用いたプログラミング実践(6) 音声合成機能の利用。英語教材の作成 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	7	Scratchを用いたプログラミング実践(7) 音声合成機能の利用。英語教材を完成させる。 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	8	Scratchを用いたプログラミング実践(8) 自分で考えてプログラムを作成する 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	9	PowerPointによるプレゼンテーション(1): 基本的なスライド作成。アニメーション機能 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	10	PowerPointによるプレゼンテーション(2): 表、グラフ、動画、音声、ハイパーリンク 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	11	PowerPointによるデジタル絵本作成 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	12	さまざまな動画作成方法。動画編集ソフトの基本操作 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	13	アニメーション作成ソフトの利用(1) タイムラインとキーフレームk 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	14	アニメーション作成ソフトの利用(2) ボーンやメッシュによる変形。 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
	15	電子黒板の利用。作成した課題のデモンストレーション 予習:(分) 復習:(45分): 授業中に学んだ概念やコンピュータの操作について復習し、身につけること										
<b>教科書・教材</b>	特になし											
<b>参考書・参考文献等</b>	特になし											
<b>履修上の注意等</b>	毎回の授業でノートパソコンを持参すること。また、画像・音声・動画などの編集操作の為にマウスが必須である。操作技術修得には毎時間の積み重ねが必要なので、その都度復習することが必要となる。											
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無										

【2301】 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
国語 I			演習	船水周	2年	前期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
1	15	30		1	○					
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末試験 期末レポート 40 無 授業内小テスト 20 有 授業内提出物 20 有 授業内活動 20 有 その他 計 100 フィードバックの方法
	○ — — ○ — ○ ○ ○ — ○ ○ — — ○ —	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫	論の立て方・根拠 相手意識・論理性 協働性	①時間内に教師が答えを発表し、学生に自己採点させる。 ②提出物等の結果は、ICTの活用や口頭により、全体に解説する。	アクティブラーニングの有無(内容) 有					
<b>授業概要</b>	この科目は、互いを認め合い、自己と他者の違いを越えて協働的に学ぶためのコミュニケーション・スキルを身に付けることをねらいとする。授業では、原則として学習者は互いに書き手・読み手、話し手・聞き手になって学び合う。また、課題について調べたことを発表したり、わからないことや疑問点を進んで質問したりする。失敗や批判を恐れず、自分の考えを堂々と述べてほしい。								演習、個別・ペア・グループワーク学習等	
<b>授業の到達目標</b>	①文章作成では、説得力のある「論の立て方」を学び、身に付ける。 ②会話では、学んだ「論の立て方」を使って伝え合うことができる。 ③互いの考えを交換できるように他者との対話の仕方を身に付ける。 ④根拠(理由や事実、データ)をもとに自分の意見を論理的に述べる。									
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～④の合計が60点以上であること。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	「事実と意見・感想の区別」「問いと答え」「批評の仕方」「三角ロジック」他 予習:(20分)「事実と意見・感想」「批評」「ロジック」の意味を調べておくこと 復習:(40分)「事実と意見・感想の区別」「三角ロジック」等の知識を使って、提示課題を解くこと								
	2	「発表の仕方」「質問の仕方」「レジュメのまとめ方」「箇条書き」他 予習:(20分)「質問」「レジュメ」「箇条書き」の意味を調べておくこと 復習:(40分)「質問」「箇条書き」の知識・技能を使って、提示課題を解くこと								
	3	「文章作成・情報の調整」「会話:感謝を伝える」「漢字:送り仮名の付け方1」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	4	「文章作成:段落構成の理解」「会話:延期を依頼する」「漢字:送り仮名の付け方2」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	5	「文章作成:要約する」「会話:書類を提出する」「漢字:敬語1 基本の形」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	6	「文章作成:文章構造の理解」「会話:手順を質問する」「漢字:敬語2 特別な形」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	7	「文章作成:プランニング1」「会話:会議で司会する」「漢字:敬語3 ウチとソト」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	8	「文章作成:プランニング2」「会話:遅刻を連絡する」「漢字:敬語4 間違いやすい敬語」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	9	「文章作成:異なる主張から検討」「会話:会議で意見を述べる」「漢字:改まった表現」他 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	10	「文章作成:理由の妥当性」「会話:進捗状況を報告する」「漢字:熟語の構成」他 授業内小テスト① 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	11	「文章作成:証拠となる資料」「会話:会議を結論に導く」「漢字:漢字の構成」他 授業内小テスト② 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	12	「文章作成:論理的つながりを検討」「会話:企画を相談する」「漢字:四字熟語1」他 授業内小テスト③ 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	13	「文章作成:原稿の作成」「会話:伝言を述べる」「漢字:四字熟語2」他 授業内小テスト④ 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	14	「文章作成:資料の作成」「会話:自己PRをする」「漢字:対義語・誤字訂正」他 授業内小テスト⑤ 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと								
	15	「文章作成:発表する」「会話:志望動機を述べる」「漢字:これまでの復習」他 授業内小テストのまとめ⑥ 予習:(20分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確認しておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを適切に整理して、教科書の練習問題等を解くこと(過去問も振り返ってみる)								
<b>教科書・教材</b>	木下直子・木山三佳・徳田恵『学生のコミュニケーション・スキルの学び』(実教出版) レジュメ									
<b>参考書・参考文献等</b>	吉原恵子・間瀬泰尚・富江英俊・小針誠『スタディスキルズ・トレーニング』(実教出版)田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』(ミネルヴァ書房) 中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版)中村萬里・川崎聡・津野瀬果絵・矢毛達之・占部匡美・蔵田純子『実践日本語ワークブック』(双文社出版)藤田哲也編著『大学基礎講座改訂版』(北大路書房)									
<b>履修上の注意等</b>	教科書の該当部分等、予習して授業に臨む。									
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	公立小学校教諭・教頭・校長、教育センター研究員、小・中・高での授業、内地留学、教育雑誌・書籍・新聞コラムの執筆等の実務経験をもとに、国語力及び国語学力の向上に資するため、コミュニケーションの知識、技能を理解させ、具体的、実践的に学んでもらう。							

【2302】 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科				
国語Ⅱ			演習	船水周	2年	後期	こども発達学科				
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力					《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》
	○	○	—	○	—	○	○	○	○	○	—
	○	○	—	○	—	○	○	○	○	○	—
	計		100	フィードバックの方法							
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		日本語の規則性・変化 相手意識・論理性 能動性			①時間内に教師が答えを発表し、学生に自己採点させる。 ②提出物等の結果は、ICTの活用や口頭により、全体に解説する。					
<b>授業概要</b>	この科目には2つのねらいがある。一つは日本語の基礎知識や言葉の現象についてザッと振り返り、「言葉そのもの」「言葉の使い方」に見られる規則性や変化を知ることである。もう一つはそれらをもとにさまざまな文章表現(言語文化)を調べたり、考えたり、話し合ったりすることである。自分自身の日本語に対する意識と教養を高め、豊かな言語生活を創造し続ける人をめざしてほしい。									演習、個別・ペア・グループワーク 学習等	
<b>授業の到達目標</b>	①日本語の基礎知識や日常の言語生活をもとに、日本語の規則性や変化を理解する。 ②文章表現について調べたり、考えたり、話し合いながら自分なりの解釈をもつ。 ③自分の主張が相手にしっかりと伝わるように発表や質問の仕方を工夫する。 ④物事の善悪・是非・疑問点などについて、評価したり述べていく。										
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～④の合計が60点以上であること。										
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容									
	1	【日本語の基礎1】音韻「音節・単音」「アクセント・抑揚」「言語変化(連濁・音の脱落、添加…)」「五十音図」「音の説明」他 予習:(20分)「音韻」「アクセント」「五十音図」等について、事前に調べておくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	2	【日本語の基礎2】文字「漢字・六書・音訓」「万葉仮名・平仮名・片仮名」「ローマ字」「仮名遣い」他 予習:(20分)「六書」「音訓」「万葉仮名」「ローマ字」等について、資料等で事前に調べておくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと 授業内小テスト①									
	3	【日本語の基礎3】語彙「語彙と語句」「理解語彙・使用語彙」「対義語」「国語辞典」「漢和辞典」他 予習:(20分)「語彙」「語句」対義語について、資料等で事前に調べておくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと 授業内小テスト②									
	4	【日本語の基礎4】文法「文・文節」「活用」「語幹・語尾」「助詞・助動詞」他 予習:(20分)「文・文節」「活用」「語幹・語尾」について、資料等で事前に調べておくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと 授業内小テスト③									
	5	【日本語の基礎5】文章「構成」「論理展開」「文脈」「語順」「文末表現」「表現の工夫」「解釈」他 予習:(20分)「構成」「論理」「文脈」「解釈」について、資料等で事前に調べておくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと 授業内小テスト④									
	6	【テキスト読解1】漢詩(構成・春暁・春夜・静夜思・絶句・桃夭・鹿柴・春望他) 授業内小テスト⑤ 予習:(20分)事前に渡された資料(漢詩)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	7	【テキスト読解2】ことわざ・格言・名言・故事成語(大学・易経・論語・韓非子・孫子・史記他)、古文随筆(名文) 授業内小テスト⑥ 予習:(20分)事前に渡された資料(ことわざ等)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	8	【テキスト読解3】近代詩(島崎藤村・北原白秋・室生犀星・高村光太郎・宮澤賢治他) 予習:(20分)事前に渡された資料(近代詩)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	9	【テキスト読解4】短歌・俳句(晶子・子規・牧水・啄木・茂吉・虚子・鬼城・山頭火他) 予習:(20分)事前に渡された資料(俳句・短歌)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	10	【テキスト読解5】近代文学① 正岡子規『歌よみに与ふる書』『病床六尺』『仰臥漫録』他 予習:(20分)事前に渡された資料(正岡子規)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	11	【テキスト読解6】近代文学② 夏目漱石『夢十夜』『第一夜』『第三夜』『第六夜』他 予習:(20分)事前に渡された資料(夢十夜)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	12	【テキスト読解7】近代文学③ 芥川龍之介『羅生門』 予習:(20分)事前に渡された資料(羅生門)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	13	【テキスト読解8】現代文学① 志賀直哉『城の嶺にて』 予習:(20分)事前に渡された資料(城の嶺にて)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	14	【テキスト読解9】現代文① 清水幾太郎『『が』を警戒しよう』(出典『論文の書き方』岩波書店) 予習:(20分)事前に渡された資料(『が』を警戒しよう)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
	15	【テキスト読解10】現代文② 竹内均『もの見方をちよつと変えてみないか』等(出典『人生を最高に生きる法』三笠書房) 予習:(20分)事前に渡された資料(もの見方をちよつと変えてみないか等)を読んでおくこと 復習:(40分)授業内容を箇条書きで整理し、自分の気付きや考えをまとめておくこと									
<b>教科書・教材</b>	特になし レジュメ・資料										
<b>参考書・参考文献等</b>	出口汪『ビジネスマンのための国語カトレーニング』(日本経済新聞社出版)飯間浩明『辞書を編む』(光文社)国語学会編『国語学大辞典』(東京堂出版)山田敏弘『日本語音声・音言語改訂版』(くろしお出版)岩淵匡・桜井光昭・武部良明・森田良行編『日本文法用語辞典』(三省堂)榊原邦彦『国語表現事典』(和泉書院)石黒圭『文章の裏ワザ』(河出書房新社)										
<b>履修上の注意等</b>	事前に資料を読んだり、必要事項を調べたりして授業に臨む。										
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	公立小学校教諭・教頭・校長、教育センター・研究員、小・中・高での授業、内地留学、教育雑誌・書籍・新聞コラムの執筆等の実務経験をもとに、国語力及び国語学力の向上に資するため、国語の知識、文学作品などを理解させ、具体的、実践的に学んでもらう。								

【2303】 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
社会			演習	大谷伸治	2年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士					
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適用し、その課題を解決する能力》 期末レポート 40 無 授業内小テスト 授業内提出物 60 有 授業内活動 その他 計 100 フィードバックの方法			
	○	○	○	—	○	○	○	—		—	○	○
	≪知識・理解≫ 小学校社会科、歴史教育、平和教育、憲法教育、主権者教育		≪汎用的技能≫ 歴史的思考力、情報リテラシー、メディアリテラシー							≪態度・志向性≫ 教材眼(教材化できそうな素材を見つける力)		
	<b>当該科目のキーワード</b>		小学校社会科のカリキュラム編成の特質に対する十分な理解の上で、歴史学、歴史地理学、歴史社会学、憲法学、政治学の知見から、教科内容への理解を深め、小学校社会科の授業づくりに求められる社会認識の基礎と基本を身に付ける。							毎回の振り返り(授業後Googleフォームで提出)から数人を選び、次時の導入で紹介したり、質問に答えたりする。		
	<b>授業概要</b>		小学校社会科のカリキュラム編成の特質をふまえて、教科内容への理解を深める。 ②人文・社会諸科学の知見から、教科の本質をふまえた授業づくりに求められる社会認識の基礎と基本を身に付ける。							アクティブラーニングの有無(内容) 有 グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習		
<b>授業の到達目標</b>		①小学校社会科のカリキュラム編成の特質をふまえて、教科内容への理解を深める。 ②人文・社会諸科学の知見から、教科の本質をふまえた授業づくりに求められる社会認識の基礎と基本を身に付ける。										
<b>単位認定の要件</b>		到達目標①～②の合計が60点以上であること。										
<b>授業計画(予習、復習の内容・時間含む)</b>		回	内 容									
		1	ガイダンス、～社会科とは何か?～ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		2	歴史(学)とは何か? ～歴史との対話～ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		3	歴史学と歴史教育をつなぐ ～「歴史する(Doing History)」授業の可能性～ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		4	〈日本〉史とは何か?① ～古地図からみる〈日本〉～ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		5	〈日本〉史とは何か?② ～北海道からみる原始・古代の〈日本〉～ 予習:(0分) 復習:(180分)動画を視聴し、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		6	〈日本〉史とは何か?③ ～「ひとつの日本」から「いくつもの日本」へ～ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		7	アイヌと津軽 予習:(0分) 復習:(180分)動画を視聴し、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		8	民衆からみる戦争①プロパガンダ 予習:(0分) 復習:(180分)動画を視聴し、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		9	民衆からみる戦争②戦争に征った動物たち 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		10	読谷村からみる沖縄戦 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		11	戦争史学習のまとめ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		12	憲法とは何か? 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		13	憲法を使いこなす主権者を育てる 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		14	憲法教育のまとめ 予習:(0分) 復習:(180分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
		15	青森空襲を「歴史する」全体のまとめ～再び、社会科とは何か?～ 予習:(90分)これまでの授業資料を改めて読み直し、全体の内容を想起する。 復習:(90分)配布資料を読み、授業内容への理解と考察を深めた上で、Googleフォームで振り返りを提出する。									
<b>教科書・教材</b>		文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編(平成29年7月) <a href="https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kyoiku01-100002608_3.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kyoiku01-100002608_3.pdf</a>										
<b>参考書・参考文献等</b>		井田仁康・唐木清志編著『初等社会科教育』(ミネルヴァ書房、2018年)										
<b>履修上の注意等</b>		○本講義は教科内容に関する講義ですが、まずは担当教員が小学校現場で実践してきた授業を模擬的に体験してもらい、その後に学術的な知見から解説をする流れで進めます。授業パートでは、子どもに戻ったつもりで積極的に参加してください。 ○毎回授業後、翌日までにGoogleフォームで振り返りを提出してもらいます。授業パートで体験的に感じたこと・考えたことの意味を理論をふまえてメタ的に振り返ることで、実践的な力や眼が次第に身に付いていきます。提出までの時間を取っているのはそのためです。忘れずに提出してください。										
<b>実務経験との関連</b>		実務経験の有無	有	小学校現場における教育経験のある教員が、その経験を活かして、人文・社会諸科学の専門知をふまえた小学校社会科の授業づくりの視点や方法を指導する。								



[2312] 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科							
図画工作A			演習	工藤千華	2年	前期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無					
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士						
1	15	30		1	○				期末試験					
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 70 有 授業内活動 30 有 その他 計 100 フィードバックの方法					
	○	—	○	—	○	—	○	○		—	—	—	—	○
	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		素材の特性、平面技法の基本 表現にあった素材の活用、Webの活用 共同制作、制作態度							制作した作品の鑑賞 アクティブラーニングの有無(内容) 有				
授業概要	実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに表現に関する知識・技能、指導法の工夫について学習する。								個人ごとの造形活動、共同制作におけるグループ活動					
授業の到達目標	児童の造形活動に必要な素材に関する特性を理解する。道具に関する知識を習得し、使用方法や基本的な技法を習得する。													
単位認定の要件	課題作品(70%)、制作の取り組み状況(30%)の合計点が60点以上。													
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容												
	1	授業ガイダンス 予習:(25分)小学校学習指導要領解説図画工作編の熟読。 復習:(20分)小学校学習指導要領解説図画工作編の熟読。												
	2	①紙を使った造形表現 予習:(25分)紙を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)紙を使った造形活動の計画書作成。												
	3	①紙を使った造形表現 予習:(25分)紙を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)紙を使った造形活動の計画書作成。												
	4	②布を使った造形表現 予習:(25分)布を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)布を使った造形活動の計画書作成。												
	5	②布を使った造形表現 予習:(25分)布を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)布を使った造形活動の計画書作成。												
	6	②布を使った造形表現 予習:(25分)布を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)布を使った造形活動の計画書作成。												
	7	③水彩絵の具を使った造形表現 予習:(25分)水彩絵の具を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)水彩絵の具を使った造形活動の計画書作成。												
	8	③水彩絵の具を使った造形表現 予習:(25分)水彩絵の具を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)色面の構成に関する造形活動の計画書作成。												
	9	③水彩絵の具を使った造形表現 予習:(25分)水彩絵の具を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)色面の構成に関する造形活動の計画書作成。												
	10	④墨を使った造形表現 予習:(25分)墨を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)色面の構成に関する造形活動の計画書作成。												
	11	⑤版を使った造形表現 予習:版を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:版を使った造形活動の計画書作成。												
	12	⑤版を使った造形表現 予習:版を使った造形作品に関するネット調査。 復習:版を使った造形活動の計画書作成。												
	13	⑥共同制作による壁面の装飾 予習:(25分)壁面の熟読とスケッチ。 復習:(20分)共同制作による造形活動の計画書作成。												
	14	⑥共同制作による壁面の装飾 予習:(25分)共同制作に関するネット調査。 復習:(20分)共同制作による造形活動の計画書作成。												
	15	⑥共同制作による壁面の装飾 予習:(25分)共同制作に関するネット調査。 復習:(20分)共同制作による造形活動の計画書作成。												
教科書・教材	特になし。													
参考書・参考文献等	「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編」(日本文教出版)、「図画工作科教育法」(萌文書林)													
履修上の注意等	絵の具セット、はさみ、カッター、ボンドは、必ず持参する。													
実務経験との関連	実務経験の有無	無												

[2313] 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科						
図画工作B			演習	工藤千華	2年	後期	こども発達学科						
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無				
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士					
1	15	30		1	○				期末試験				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》			
	○	—	○	—	—	○	○	—	—	—	—	—	○
	≪知識・理解≫ 素材の特性、平面技法の基本		≪汎用的技能≫ 表現にあった素材の活用、Webの活用		≪態度・志向性≫ 共同制作、制作態度		制作した作品の鑑賞			アクティブラーニングの有無 (内容)	有		
	<b>授業概要</b> 実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに表現に関する知識・技能、指導法の工夫について学習する。		<b>授業の到達目標</b> 児童の造形活動に必要な素材に関する特性を理解する。道具に関する知識を習得し、使用方法や基本的な技法を習得する。			<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)			個人ごとの造形活動、共同制作におけるグループ活動				
<b>単位認定の要件</b> 課題作品(70%)、制作の取り組み状況(30%)の合計点が60点以上。		<b>回</b>		<b>内 容</b>									
		1	授業のガイダンス 予習:(25分)小学校学習指導要領解説図画工作編の熟読。 復習:(20分)小学校学習指導要領解説図画工作編の熟読。										
		2	①アルミホイルと針金を使った造形表現 予習:(25分)アルミホイルと針金を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)アルミホイルと針金を使った造形活動の計画書作成。										
		3	①アルミホイルと針金を使った造形表現 予習:(25分)アルミホイルと針金を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)アルミホイルと針金を使った造形活動の計画書作成。										
		4	①アルミホイルと針金を使った造形表現 予習:(25分)アルミホイルと針金を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)アルミホイルと針金を使った造形活動の計画書作成。										
		5	新聞紙を使った造形表現(1) 予習:(25分)新聞紙を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)新聞紙を使った造形活動の計画書作成。										
		6	新聞紙を使った造形表現(2) 予習:(25分)新聞紙を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)新聞紙を使った造形活動の計画書作成。										
		7	新聞紙を使った造形表現(3) 予習:(25分)新聞紙を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)新聞紙を使った造形活動の計画書作成。										
		8	木材を使った造形表現(1) 予習:(25分)木材を使った造形作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)木材を使った造形活動の計画書作成。										
		9	木材を使った造形表現(2) 予習:(25分)木材を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)木材を使った造形活動の計画書作成。										
		10	木材を使った造形表現(3) 予習:(25分)木材を使った造形作品に関するネット調査。 復習:(20分)木材を使った造形活動の計画書作成。										
		11	段ボールを使った共同制作(1) 予習:(25分)段ボールを使った立体作品の熟読とスケッチ。 復習:(20分)段ボールを使った共同制作の計画書作成。										
		12	段ボールを使った共同制作(2) 予習:(25分)段ボールを使った立体作品に関するネット調査。 復習:(20分)段ボールを使った共同制作の計画書作成。										
		13	段ボールを使った共同制作(3) 予習:(25分)段ボールを使った立体作品に関するネット調査。 復習:(20分)段ボールを使った共同制作の計画書作成。										
		14	自由課題(1) 予習:(25分)様々な素材に関するネット調査。造形活動の熟読と作品のスケッチ。 復習:(20分)造形活動の計画書作成。										
		15	自由課題(2) 予習:(25分)様々な素材に関するネット調査。 復習:(20分)造形活動の計画書作成。										
<b>教科書・教材</b>		特になし。											
<b>参考書・参考文献等</b>		「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編」(日本文教出版)、「図画工作科教育法」(萌文書林)											
<b>履修上の注意等</b>		絵の具セット、はさみ、カッター、ボンドは必ず持参する。											
<b>実務経験との関連</b>		実務経験の有無	無										



[2315] 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
小学体育A			演習	上野秀人	2年	前期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
1	15	30		1	○				期末試験	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、自ら課題へ適用し、その課題を解決する能力》	
	○	—	○	○	—	—	—	○	○	○
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		運動特性・ルールの解釈							期末レポート
	≪汎用的技能≫		運動スキルの解釈							授業内小テスト
	≪態度・志向性≫		探求心、協力・協働・協調							授業内提出物
<b>授業概要</b>	小学校体育科の領域のうち、主に陸上運動とボール運動の内容について取り扱い、理解を深める。様々な運動の持つ特性、ねらい、ルールや審判法を学ぶことにより、自らが楽しんで行う運動実践、さらには仲間との協力・協働から学ぶ社会的態度の育成を図りながら、教員を目指す者の資質向上に役立てたい。 ※天候や施設用具によって活動内容・場所を変更する								授業内提出物 20 無 授業内活動 50 無 その他 30 無	
<b>授業の到達目標</b>	①小学校体育科のねらいと内容を理解する ②高学年の運動課題の解決に努める ③技や動きのコツをつかみ、よりよい動きを身につける								授業内活動 50 無 その他 30 無	
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上であること								計 100 <b>フィードバックの方法</b>	
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								アクティブラーニングの有無(内容)
	1	本授業の目的、概要・計画について、準備運動 予習:(45分)小学校学習指導要領(体育編)の教科の目標及び内容について調べる 復習:(30分)体育科の内容構成について理解する								有
	2	陸上運動(走1):速く走る 予習:(45分)走に関わるルール(施設用器具及び競技)を調べる 復習:(30分)走の運動遊び・様々な走運動・競技としての走運動を理解する								
	3	陸上運動(走2):リレー 予習:(45分)リレーに関わるルール(施設用器具及び競技)を調べる 復習:(30分)リレー遊び・リレーを理解する								
	4	陸上運動(跳) 予習:(45分)跳に関わるルール(施設用器具及び競技)を調べる 復習:(30分)跳の運動遊び・跳を理解する								
	5	陸上運動(投運動) 予習:(45分)投のルール(施設用器具及び競技)を調べる 復習:(30分)投の運動遊び・投運動を理解する								
	6	陸上運動(障害走):リズムカルに飛び越える、まとめ 予習:(45分)ハードル走におけるルール(施設用器具及び競技)を調べる 復習:(30分)障害走の運動遊び・障害走の運動・競技としての障害走を理解する								
	7	体力測定(新体力テスト):新体力テストの実施、評価 予習:(45分)新体力テストの種目、実施方法、実施上の留意点を調べる 復習:(35分)新体力テストの種目、実施方法、実施上の留意点を理解する								
	8	ボール運動(ネット型1):「ネット型」ゲームの行い方 予習:(45分)「ネット型」のゲームの種類やその行い方について調べる 復習:(30分)ネット型の行い方を理解する								
	9	ボール運動(ネット型2):「ネット型」ゲームの行い方、ボール操作 予習:(45分)「ネット型」の行い方や運動が苦手な児童への配慮について調べる 復習:(30分)各種の運動の特性や指導上の留意点について理解する								
	10	ボール運動(ネット型3):「ネット型」ボール操作、ボールを持たない動き 予習:(45分)「ネット型」の行い方や運動が苦手な児童への配慮について調べる 復習:(30分)各種の運動の特性や指導上の留意点について理解する								
	11	ボール運動(ネット型4):作戦を考える、まとめ 予習:(45分)「ネット型」の行い方や作戦について調べる 復習:(30分)各種の運動の特性や指導上の留意点について理解する								
	12	ボール運動(ゴール型1):「ゴール型」ゲームの行い方、投げる、受ける、止める等のボール操作 予習:(45分)「ゴール型」ゲームの種類やその行い方について調べる 復習:(30分)ボール操作やボールを持たないときの動きについて理解する								
	13	ボール運動(ゴール型2):「ゴール型」ゲームの行い方、ボール操作、まとめ 予習:(45分)ボール運動「ゴール型」ゲームの種類やその行い方について調べる 復習:(30分)ボール操作やボールを持たないときの動きについて理解する								
	14	ボール運動(ベースボール型1):「ベースボール型」ゲームの行い方、蹴る、受ける等のボール操作 予習:(45分)「ベースボール型」ゲームの種類やその行い方について調べる 復習:(30分)ボール操作やボールを持たないときの動きについて理解する								
	15	ボール運動(ベースボール型2):打球の捕球、作戦を考える、まとめ 予習:(45分)「ベースボール型」の行い方、ルールについて調べる 復習:(30分)打球の捕球や捕球する相手に向かっての投球、ゲームにおける作戦を理解する								
<b>教科書・教材</b>	小学校学習指導要領解説 体育編(文部科学省)									
<b>参考書・参考文献等</b>	授業内で適宜資料を配付します。									
<b>履修上の注意等</b>	習得の効果をより高めるために教科書をよく読み、技のポイント確認と予備学習に努めてください ※天候や施設用具によって活動内容・場所を変更する									
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	小学校及び在外教育施設における指導経験のある教員が、その経験を活かして、教材研究の仕方や授業展開の仕方などについて、具体的な授業場面をもとに指導する							

[2316] 専門教育科目 教科に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
小学体育B			演習	上野秀人	2年	後期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			必修	選択	小学校	幼稚園	保育士					
1	15	30		1	○					期末試験		
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 20 無 授業内活動 50 無 その他 30 無 計 100 フィードバックの方法	
	○	—	—	○	—	—	—	○	○	○		—
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		運動特性の理解									
	≪汎用的技能≫		運動スキル									
	≪態度・志向性≫		協働性									
<b>授業概要</b>	小学校学習指導要領(体育編)の内容から、器械運動(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動)、体づくり、表現について扱い、それらの運動特性に触れながら技の習得を目指す。「できるより上手できる」を目標に、児童の実態に対応した指導につなげる。また、雪国の地域性を活かした雪上運動も含めて行う。									グループディスカッション、グループワーク		
<b>授業の到達目標</b>	小学校体育科のねらいと内容を理解し、高学年の課題解決に努める。技や動きのコツをつかみ、より安定した技の習得と、安全な補助法を身につける。											
<b>単位認定の要件</b>	高学年の内容から提示される実技課題において、技の完成度が概ね認められる											
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	本授業の目的、概要・計画について 集団行動 予習:(40分)小学校学習指導要領(体育編)の教科の目標及び内容について調べる 復習:(40分) 集団行動の必要性和号令のかけ方										
	2	体づくり1 予習:(40分)小学校学習指導要領(体育編)の体づくりの目標及び内容について調べる 復習:(40分) 運動の仕方と指導の仕方確認										
	3	体づくり2 予習:(40分)小学校学習指導要領(体育編)の体づくりの目標及び内容について調べる 復習:(40分) 運動の仕方と指導の仕方確認										
	4	器械運動1(マット運動1)、基本の運動、回転系、巧技系 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	5	器械運動2(マット運動2)、回転系、巧技系、発展技 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	6	器械運動3(マット運動3)、発展技・連続技 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり・マット運動演技構成の確認 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	7	器械運動4(マット運動4)、連続技の組み立て及び修正 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり・マット運動演技構成確認 復習:(40分) マット運動演技反省及び技の復習										
	8	器械運動5(マット運動5)、実技試験、まとめ 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり・マット運動演技構成確認 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	9	器械運動6(跳び箱運動1)、開脚跳び 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	10	器械運動7(跳び箱運動2)、台上前転 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	11	器械運動8(鉄棒運動①)、基本の運動、上がり技、下り技、支持回転技 予習:(40分)基本の運動、上がり技、下り技、支持回転技の確認 復習:(40分) 技の復習及び学習指導要領等による指導のポイント確認										
	12	器械運動9(鉄棒運動②)、発展技・技の組み合わせ、まとめ 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり・鉄棒運動の演技構成確認 復習:(40分) 鉄棒運動反省及び技の復習										
	13	表現1 予習:(40分)小学校学習指導要領(体育編)の表現の目標及び内容について調べる 復習:(40分) 運動の仕方と指導の仕方確認										
	14	表現2 予習:(40分)表現の仕方の確認 復習:(40分) 運動の仕方と指導の仕方確認										
	15	雪上運動、まとめ 予習:(40分)柔軟運動及び体づくり 復習:(40分) 学習指導要領等による指導のポイント(本講義内容)のまとめ										
<b>教科書・教材</b>	小学校学習指導要領解説 体育編(文部科学省)											
<b>参考書・参考文献等</b>	授業内で適宜参考資料を配付する											
<b>履修上の注意等</b>	習得の効果をより高めるために教科書をよく読み、技のポイント確認と予備学習に努めてください ※天候や施設用具によって活動内容・場所を変更する											
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	小学校及び在外教育施設における指導経験のある教員が、その経験を活かして、教材研究の仕方や授業展開の仕方などについて、具体的な授業場面をもとに指導する									

【2501】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
子どもの健康と安全			演習	福土章子	2年	後期	こども発達学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士	
1	15	30		1		○	○		期末試験
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 授業内小テスト 60 有 授業内提出物 20 有 授業内活動 20 無 その他 計 100 フィードバックの方法
	○	—	—	—	—	○	—	—	
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫ 乳幼児の発育、発達、疾病、障害に関する知識・理解		≪汎用的技能≫ 危機管理能力、救急処置や衛生管理の実践力			≪態度・志向性≫ 子どもの健康と安全を守る責任感			提出物は、評価したのちに返却する。授業内試験は、採点后、返却し、授業中に解説する。 アクティブラーニングの有無(内容) 有
	<b>授業概要</b> 子どもの保健で学んだ内容を更に発展させ、演習を中心に乳幼児のケアや健康管理、安全管理、健康教育を実践できるよう学んでいく。発育測定や事後措置の実習、消防署の救急救命講習を利用した救急処置の実習、保健便りの作成などを通して、保育の現場ですぐに役立つ実践力を身につける。								
	<b>授業の到達目標</b> ・疾病とその予防及び衛生管理、体調不良等に対する適切な対応ができるよう、知識や実践力を習得する。 ・日常の保育の中での養護や援助の方法・技術を身につける。 ・救急時の対応や事故防止、安全管理について実践できるようになる。 ・保健の知識をふまえた上で、家庭や地域との連携のあり方を考える。								
<b>単位認定の要件</b>			試験、授業内活動、提出物の合計評価が60点以上の者に単位を認定する。						
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容							
	1	子どもの発育・発達の特徴を理解し、発育測定の方法と技術を習得する。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	2	乳幼児の健康診断・発育測定の計画を立案し、評価、事後措置を学ぶ。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	3	子どもの健康状態を観察する技術を習得する。(健康観察、体温、脈拍、呼吸の測定) 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	4	子どもの日常における養護の基本的な技術を習得する。(抱っこ、おんぶ、おむつ交換、トイレトレーニング、着替え、授乳、食事の与え方など) 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	5	子どもの基本的な生活習慣の確立について学ぶ。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	6	いざというときの救急処置の方法・技術を習得する。消防署救急隊員による救急救命講習①理論 予習:(45分)配布した資料を読んでくること。 復習:(0分)							
	7	いざというときの救急処置の方法・技術を習得する。消防署救急隊員による救急救命講習②実技 予習:(45分)配布した資料を読んでくること。 復習:(0分)							
	8	施設での安全管理、環境衛生の基準を理解し、事故の防止や災害時の危機管理について学ぶ。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	9	子どもの感染症について理解し、適切な予防方法、看護の仕方を習得する。①学校感染症 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	10	子どもの感染症について理解し、適切な予防方法、看護の仕方を習得する。②その他の感染症 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	11	慢性疾患、アレルギーや障害を持つ子どもの保育について援助方法、留意点を理解する。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	12	子どものストレス、心身症について学び、適切な援助方法を考える。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	13	子どもの虐待の防止、家庭支援の方法について理解する。 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報得ておくこと。(授業内で発表) 復習:(0分)							
	14	講義前半試験 / 家庭への啓蒙活動を考える。保健便りを作成してみる。 予習:(90分)試験範囲を復習してくる。 復習:(0分)							
	15	講義前半試験解説 / 食育基本法を理解し、園で取り組む食育について考える。 予習:(0分) 復習:(0分)							
<b>教科書・教材</b>	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂第2版 小林美由紀著 診断と治療社 (20前期の「子どもの保健」のテキストと同じ)								
<b>参考書・参考文献等</b>	特になし								
<b>履修上の注意等</b>	実習時の服装は、ジャージ、エプロン、名札、長い髪は後ろで1つに結うこと。								
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	小・中学校・大学での保健室担当の経験を活かし、子どもの体調不良への対処の仕方や救急処置の方法、感染症への予防措置などを講義する。						

【2502】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
子どもの保健			講義	松尾泉	2年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士				
2	15	30		2		○	○		期末試験			
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート	60	有
	○	—	—	○	—	—	○	○		—	○	授業内小テスト
										授業内提出物	10	有
										授業内活動	10	有
										その他		
										計	100	
										フィードバックの方法		
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		子どもの成長・発達 生活機能 (ICF) 健康課題 子どもの健康状態のアセスメント 事故予防と対処 子どもの権利やHOPEを認め支える姿勢						受講時に学生が作成した振り返りシートをもとに、理解度を理解し、質問などについては毎回コメントを返却する。			
授業概要				乳幼児期を中心に、子どもの成長発達と生活機能を支える保育・養護の意義について理解する。また、小児感染症などかかりやすい疾病の特徴と観察ポイント、事故やケガの対処法・予防策・ヘルスプロモーションなどの基礎的な知識や技術を学ぶ。						グループディスカッション、グループワーク		
授業の到達目標				子どもの発達を促し、生活機能や健康を維持増進するための、基本的な知識や技術を学習する。子どもの身体発育や生理機能、運動機能の発達を理解できる。子どもが自分の育ちに参加するために、家族や地域の社会資源とともに子どもを支える意義が理解できる。乳幼児期にかかりやすい病気の特性を理解し、予防することができる。保育現場における安全対策、危機管理の知識と技術を身につけることができる。								
単位認定の要件				到達目標の合計が60点以上であること。								
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	子どもの健康と支援・ヘルスプロモーションの意義 予習:(60分)指定のテキストを活用すること。第1章テキストの目次・使用方法について確認する。 復習:(120分)子どもの健康と保健について理解する。第1章振り返りの問題を解答する。										
	2	子どもの発育・発達(胎児から新生児・乳児・幼児各期の変化) 予習:(90分)第2章子どもの発育・発達と保健について確認する。 復習:(90分)振り返りの問題を解答する。										
	3	人体構造・生理機能の発達(新生児・乳児期) 予習:(90分)子どもの生理機能と生活習慣について確認する。 復習:(90分)第2章の振り返り問題を解答する。										
	4	精神・運動機能の発達と評価 予習:(90分)第2章子供の運動機能の発達について確認する。 復習:(90分)原始反射や発達評価の方法について復習する。										
	5	乳幼児期の情緒・社会性の発達と保育 予習:(90分)子どもの心理社会的な問題について、ニュースなどを検索しておく 復習:(90分)保育・幼児教育の役割について考察する。										
	6	新生児・乳児の健康観察や養育の基本技術 予習:(90分)第4章子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握について確認する。 復習:(90分)子どもの検温時に留意することを考察する										
	7	感染症と予防法について 予習:(90分)第4章子どもの免疫・感染症、第5章感染症の予防・対応について確認する。 復習:(90分)本科目の中で重要な単元であるため、不明な点は次回質問して解決するなど確実に身に付けること。										
	8	子どもの病氣(食中毒 アレルギー 呼吸器 循環器 消化器) 予習:(90分)第5章アレルギー疾患の特徴と対応について確認する。 復習:(90分)振り返りの問題を解答する。										
	9	子どもの病氣(血液 神経 内分泌など) 予習:(90分)子どもの慢性疾患についてテキストを確認する。 復習:(90分)子どもの看護について、プレパレーションの重要性について考察する。										
	10	病氣や障がいを持つ子どもと家族の療養支援・多職種連携 予習:(分)保護者との情報共有や家族に支援について、テキストを確認する。 復習:(分)子どものライフサイクル各期に必要な支援・家族への支援について考察する。										
	11	事故防止と安全対策・応急処置 予習:(90分)子どもの事故やケガの特徴や対処について、テキスト第5章を確認する。 復習:(90分)子どもの心肺蘇生法や救急車の呼び方など具体的は行動を考察する。										
	12	乳幼児期の生活機能(活動・参加)と健康 予習:(90分)子どもの健康と保健についてテキストを確認する。 復習:(90分)子どものいのち・くらし・育ちを支える制度について理解を深める。										
	13	子どもや家族・地域の健康の現況と課題(虐待予防・安全管理・子育て支援) 予習:(90分)第3章地域における保健活動と子どもの虐待防止について確認する。 復習:(90分)地域における子育て支援について、具体的な取り組みを考察する。										
	14	国内外で展開する母子保健活動(通過儀礼・国際理解) 予習:(90分)第3章海外での子育て支援の記事を確認する。 復習:(90分)在日外国人家族の子育て事情についてニュースなどで理解する。										
	15	まとめ 切れ目のない子どもの健康支援について 予習:(90分)自分の居住地の子ども子育て支援について確認する。 復習:(90分)子どもの健康課題を取り上げてその原因や解決策を考察しよう。										
教科書・教材	小林美由紀 授業で現場で役に立つ！ 子どもの健康と安全 演習ノート 改訂第2版 改訂第2版 2021年											
参考書・参考文献等	「学習指導要領」「幼稚園教育要領」及び「国民衛生の動向」「子どもの健康と安全 演習ノート 改訂第2版」など											
履修上の注意等	日ごろから子どもたちの健康問題に関心を持ち、ニュース等で得た情報や事例と講義を結び付けて学びを深めましょう。本科目を通じて自己の子ども観・保育観を育て、今後の学習につなげてください。											
実務経験との関連	実務経験の有無	有	保健師・助産師の資格を持ち、小児保健に関する実務経験を持つ教員が担当します。									

【2504】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
子どもの環境			演習	吉田裕美子	2年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士				
1	15	30		1			○	○	期末試験			
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、適切な課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート	50	有
	○	—	○	○	—	—	○	○		○	—	—
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		幼児の発達と環境との関わりについての知識・理解							観察カードや製作物の点検を行い、それぞれのよさを指摘し励ます。随っている課題については個別に助言を加える。		
	≪汎用的技能≫		言語系、非言語系による伝達のための技能									
	≪態度・志向性≫		グループ活動における協働性									
<b>授業概要</b>	幼児を取り巻く物的、人的、社会的環境等との関わりが幼児の発達、特に思考力や科学的な見方・考え方の芽生えとなる事を理解すると共に、幼児が興味・関心や好奇心・探究心をもち能動的に関わるようにするための望ましい関わり方や幼児教育の専門家としての共感的な援助はどうあるべきかについて学ぶ。									グループディスカッション、グループワーク		
<b>授業の到達目標</b>	目標：幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義や幼児の思考・科学的概念発達の理解、標識や文字等の情報や施設との関わりを理解できること。また、人的環境の最も重要な環境は保育者であり、子どもの発見や驚き、気付きに共感できる望ましい援助の仕方ができる。											
<b>単位認定の要件</b>	小テスト(幼稚園教育要領「環境」の理解)、主体的な学習活動、子どもへの共感的な援助など											
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	第1回：幼児を取り巻く環境(物的・人的・社会的)の現状 予習:(30分) 子どもが育つ環境 復習:(15分) 日本における社会環境の変化と課題										
	2	第2回：保育内容「環境」の意義 予習:(30分) 幼稚園教育要領解説の熟読 復習:(15分) 環境を通して行う教育、保育内容「環境」のねらいについて理解を深める										
	3	第3回：好奇心・探究心を育む保育 予習:(30分) 乳児期の子どもの「環境を探索する」姿 復習:(15分) 子ども的好奇心・探究心を育てる環境構成や保育方法										
	4	第4回：思考力を育む保育 予習:(30分) 幼児期における思考の発達を踏まえた保育 復習:(15分) 事例を通して理解を深める										
	5	第5回：人的環境と物的環境 予習:(30分) 人的環境である保育士、物的環境である園内環境のあり方 復習:(15分) 事例を通して理解を深める										
	6	第6回：地域・行事との関わり 予習:(30分) 行事と自然との関連性や行事の意義 復習:(15分) 事例を通して理解を深める										
	7	第7回：日常生活における数量・図形 予習:(30分) 保育における数量・図形・標識・文字の扱い 復習:(15分) 数量や図形に関わり親しむ経験										
	8	第8回：石・砂・泥に関わる保育 予習:(30分) 砂・土・泥を利用した遊び 復習:(15分) 自然の不思議に対する好奇心や探求心										
	9	第9回：動植物に関わる保育 予習:(30分) 四季に応じた植物に関する遊びや、身近な小動物に関する遊び 復習:(15分) 事例を通して理解を深める										
	10	第10回：身の周りの素材を活かした保育 予習:(30分) 身の回りのものを利用した素材とその活動案 復習:(15分) 事例を通して理解を深める										
	11	第11回：保育内容「環境」に関する教材研究① 予習:(30分) 園の環境についての調査① 復習:(15分) 調査をまとめる										
	12	第12回：保育内容「環境」に関する教材研究② 予習:(30分) 園の環境についての調査② 復習:(15分) 調査をまとめる										
	13	第13回：保育内容「環境」に関する教材研究③ 予習:(30分) 園の環境についての調査③ 復習:(15分) 各班でまとめる										
	14	第14回：保育内容「環境」に関する教材研究④ 予習:(30分) 園の環境についてのまとめを発表 復習:(15分) まとめを振り返り、講評										
	15	第15回：まとめ 保育内容「環境」における課題 予習:(30分) 保育内容「環境」からみた実践的な課題保育 復習:(15分) 各班の発表からの振り返りを行う										
<b>教科書・教材</b>	幼稚園教育要領解説(文部科学省発行・フレーベル館)											
<b>参考書・参考文献等</b>	新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境											
<b>履修上の注意等</b>	新幼稚園教育要領及び保育所保育指針における「環境」の重要性の理解とともに実体験を交えながら子どもの環境についての授業を展開していく。後期は悪天候が予想されるため、天候によって計画を変更する場合もある。計画の変更や事前の準備物等については事前に連絡する。											
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無										



【2505】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科				
子どもの言葉			演習	船水周	2年	前期	こども発達学科				
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士			
1	15	30		1		○		○	期末試験		
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 30 無 授業内小テスト 20 有 授業内提出物 20 有 授業内活動 30 有 その他 計 100 フィードバックの方法		
	○	—	—	○	—	—	○	○		—	—
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		言葉の発達 言葉遊び 児童文化財						①時間内に教師が答えを発表し、学生に自己採点させる。 ②提出物等の結果は、ICTの活用や口頭により、全体に解説する。 アクティブラーニングの有無(内容) 有		
授業概要	領域「言葉」を指導するうえで基礎となる、「幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げる」ために必要な、専門的知識を修得する。幼児の言葉の発達過程や言葉に対する感覚、児童文化財の種類等の理解については、ICTの活用や演習、協議等を積極的に取り入れる。								演習、個別・ペア・グループワーク 学習等		
授業の到達目標	①人間にとって「言葉の意義や機能とは何か」を理解する。 ②言葉に対する感覚を豊かにする知識や実践方法について理解する。 ③幼児にとって「児童文化財の意義とは何か」を理解する。										
単位認定の要件	到達目標①～③の合計が60点以上であること。										
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容									
	1	人間にとって「言葉」とは何か—言葉の意義と機能 予習:(20分)言葉の意義と機能について、自分が思ったことや考えたことを200〜300字程度にまとめること 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	2	言葉の獲得(1)—子どもの言葉の発達過程:喃語・指さし 予習:(20分)「喃語」「指さし」について、教科書の該当箇所、資料等を使って、調べておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	3	言葉の獲得(2)—子どもの言葉の発達過程:話し言葉・1次的言葉 予習:(20分)「話し言葉」「1次的言葉」について、教科書の該当箇所、資料等を使って、調べておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	4	言葉の獲得(3)—子どもの言葉の発達過程:書き言葉・2次的言葉 予習:(20分)「書き言葉」「2次的言葉」について、教科書の該当箇所、資料等を使って、調べておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	5	言葉の感覚とは何か—言葉の美しさ、楽しさを感じる 予習:(20分)「言葉の美しさ、楽しさ」について、自分が思ったことや考えたことを200〜300字程度にまとめること 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	6	言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊び(1)—言葉遊びの種類・基礎的な知識等 授業内小テスト① 予習:(20分)「言葉遊び」について、教科書の該当箇所、資料等を使って、調べておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	7	言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊び(2)—言葉遊びの体験等(言葉に関する遊びを立案し、指導計画案を書く) 授業内小テスト② 予習:(20分)模擬保育で使ってみよう言葉遊びを一つ選び、その遊びについて調べておくこと 復習:(40分)授業で作成した指導計画案を発表するための準備、練習をしておくこと									
	8	言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊び(3)—言葉遊びと言葉の発達との関連 授業で作成した指導計画案を発表する(グループ1) 予習:(20分)「言葉遊びと言葉の発達との関連」について、資料等を読んで確かめておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	9	言葉を育み、想像を広げる児童文化財(1)—子どもにとって児童文化財の意義とは 授業で作成した指導計画案を発表する(グループ2) 予習:(20分)「子どもにとって児童文化財の意義」について、資料等を読んで確かめておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	10	言葉を育み、想像を広げる児童文化財(2)—児童文化財の種類・基礎的な知識等 授業で作成した指導計画案を発表する(グループ3) 予習:(20分)「児童文化財の種類・基礎的な知識等」について、教科書の該当箇所、資料等を使って、調べておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	11	言葉を育み、想像を広げる児童文化財(3)—児童文化財と言葉の発達との関連 授業で作成した指導計画案を発表する(グループ4) 予習:(20分)「児童文化財と言葉の発達との関連」について、資料等を読んで確かめておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	12	言葉を育み、想像を広げる児童文化財を用いた実践(1)—素話(昔話):ストーリーテリング 授業内小テスト③ 予習:(20分)「素話(昔話):ストーリーテリング」について、資料等を読んで確かめておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	13	言葉を育み、想像を広げる児童文化財を用いた実践(2)—紙芝居・ペープサート等 授業内小テスト④ 予習:(20分)「紙芝居・ペープサート等」について、資料等を読んで確かめておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	14	言葉を育み、想像を広げる児童文化財を用いた実践(3)—絵本の読み聞かせ 授業内小テスト⑤ 予習:(20分)「絵本の読み聞かせ」について、資料等を読んで確かめておくこと 復習:(40分)授業内容のポイントを箇条書きで整理するとともに、自分の気付きや考えも書いておくこと									
	15	全授業の振り返りとまとめ:言葉遊び・児童文化財の取り入れ方等 授業内小テストのまとめ⑥ 予習:(20分)教科書の問題(130-148頁)について、正しい答えを確認しておくこと 復習:(40分)「子どもの言葉の発達」と言葉遊び・児童文化財との関係について、自分の考えを400字程度にまとめること									
教科書・教材	田上貞一郎・高荒正子『新訂 保育内容指導法「言葉」』(萌文書林) レジュメ										
参考書・参考文献等	厚生労働省『保育所保育指針(フレイベル館) 文部科学省『幼稚園教育要領(フレイベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(フレイベル館) 谷田貝公昭・廣沢満之 編『言葉』(一豊社) 大越和幸他 編著『言葉とふれあい、言葉で育つ』(東洋館出版社)										
履修上の注意等	教科書の該当部分等、予習して授業に臨む。										
実務経験との関連	実務経験の有無	有	公立小学校教諭・教頭・校長、教育センター研究員、小・中・高での授業、内地留学、教育雑誌・書籍・新聞コラムの執筆等の実務経験をもとに、幼児期の言葉の発達・獲得に関する理論や知識、技能を理解させ、具体的、実践的に学んでもらう。								

【2506】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
子どもの表現			演習	諏訪才子	2年	後期	こども発達学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士	
1	15	30		1		○		○	期末試験
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		子どもの鑑賞、楽曲解釈、歌唱法、ピアノ伴奏法						期末レポート 授業内小テスト 70 無 授業内提出物 授業内活動 30 無 その他
	≪汎用的技能≫		歌唱表現、ピアノ伴奏表現、弾き歌い（課題発見・解決）						授業内活動・発表の自己評価、講評及び振り返りレクチャーを行う。
	≪態度・志向性≫		鑑賞、独唱・重唱、弾き歌い（自律性・協働、多様な音楽文化に対する関心・理解、表現の工夫・創造）						アクティブラーニングの有無（内容） 有
<b>授業概要</b>	幼児の音楽教育において、豊かな感性や表現力を培うためには、「聴く（鑑賞）活動が、その第一歩としてあげられる。「学び」そのものである生活・遊びの中で、日々の活動とともに展開することのできる。子どもに聴かせたい鑑賞曲を紹介し、実際に保育者自身が想像的な音楽体験をする。さらに、子どもとともに歌い、聴かせたい生きた演奏曲として重唱・唱歌、子どものオペレッタ・ミュージカル曲の歌唱（重唱を含む）及び伴奏研究を行い、音楽表現の実践的な指導力を身につける。								グループディスカッション、グループワーク、グループ発表
<b>授業の到達目標</b>	①領域「表現」における音楽表現活動と子どもの発達との関わりについて理解する。 ②鑑賞活動は、曲題や音楽の楽しさを味わいながら音楽的諸要素の基礎を養うことができ、後の音楽活動の基本となる。鑑賞を通して、曲題・楽曲の種類・演奏形態などを感得し、保育者としての音楽観を広げ、子どもの音楽的成長について理解を深める。 ③子どもとともに歌い、聴かせたい童謡・唱歌、子どものオペレッタ・ミュージカル曲の歌唱及び伴奏の研究を行い、子どもの音楽活動を支援するための実践力、豊かな音楽表現力を身につける。								
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上となること。								
<b>授業計画</b> （予習、復習の内容・時間含む）	回	内 容							
	1	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」のねらい及び内容 予習：(25分)幼稚園教育要領・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「表現」について下読みする。 復習：(10分)保育における領域「表現」のねらい及び内容についてまとめる。							
	2	子どもの発達と音楽的な遊び 予習：(25分)子どもの発達と音楽的な遊びについて下調べする。 復習：(20分)子どもの発達と音楽的な遊びについてまとめる。							
	3	鑑賞(1)オペレッタ・ミュージカル(DVD映像教材)リチャード・ロジャースミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」前編 予習：(25分)オペレッタ・ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」前半の登場人物やあらすじ、楽曲について調べる。 復習：(20分)「サウンド・オブ・ミュージック」前編の楽曲について、実際に楽譜を確認する。							
	4	鑑賞(2)オペレッタ・ミュージカル(DVD映像教材)リチャード・ロジャースミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」後編 予習：(25分)「サウンド・オブ・ミュージック」後半の登場人物やあらすじ、楽曲について調べる。 復習：(20分)「サウンド・オブ・ミュージック」後編の楽曲について、実際に楽譜を確認する。							
	5	鑑賞(3)オペレッタ・ミュージカル(DVD映像教材)リチャード・ロジャースミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」、ミュージカル作品とその楽曲、子どもの表現について 予習：(25分)子どものためのオペレッタ・ミュージカル作品について調べる。 復習：(20分)ミュージカル作品とその楽曲の鑑賞を通して、子どもの音楽表現についてまとめる。							
	6	保育における鑑賞活動(1)選曲と楽曲の理解 予習：(25分)子どもに聴かせたい質の良い声楽曲・器楽曲について調べ、複数、選曲する。 復習：(20分)鑑賞曲として選択した楽曲について、概要をまとめ、CD等で鑑賞する。							
	7	保育における鑑賞活動(2)声楽曲：モーツァルト「子守歌」、シューベルト「アヴェ・マリア」他 予習：(30分)鑑賞曲として選択した声楽曲について、概要をまとめ、CD等の音源を用意する。 復習：(15分)CD、YouTube等で、その他の声楽曲を鑑賞する。							
	8	保育における鑑賞活動(3)器楽曲：ヴィヴァルディ「四季」、チャイコフスキー組曲「くるみ割り人形」他 予習：(30分)鑑賞曲として選択した器楽曲について、概要をまとめ、CD等の音源を用意する。 復習：(15分)CD、YouTube等で、その他の器楽曲を鑑賞する。							
	9	童謡・唱歌、子どものオペレッタ・ミュージカル曲の歌唱・伴奏法(重唱を含む)(1)選曲 予習：(25分)童謡・唱歌、ミュージカル曲の楽譜から演奏曲をリストアップする。 復習：(10分)選曲した歌唱曲をCD等で鑑賞する。							
	10	童謡・唱歌、子どものオペレッタ・ミュージカル曲の歌唱・伴奏法(重唱を含む)(2)個人指導 歌唱法・伴奏法 予習：(35分)選曲した歌唱曲の読譜(パート練習)と歌詞付き歌唱、伴奏の練習を行う。 復習：(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して、選曲した歌唱曲の読譜(パート練習)、歌詞付き歌唱、伴奏練習を行う。							
	11	童謡・唱歌、子どものオペレッタ・ミュージカル曲の歌唱・伴奏法(重唱を含む)(3)個人指導 音楽表現 予習：(35分)選曲した歌唱曲の音楽表現を工夫し、歌唱及び伴奏練習を行う。 復習：(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して、選曲した歌唱曲の練習、伴奏合わせを行う。							
	12	童謡・唱歌、子どものオペレッタ・ミュージカル曲の歌唱・伴奏法(重唱を含む)(4)演奏発表と振り返り 予習：(30分)選曲した歌唱曲を総合的に仕上げる。 復習：(15分)演奏について、自己評価する。							
	13	子どもの歌 弾き歌い(1)歌唱法 予習：(25分)課題曲の歌唱及び伴奏の読譜と練習を行う。 復習：(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。							
	14	子どもの歌 弾き歌い(2)伴奏法 予習：(25分)課題曲の歌唱及び伴奏練習を行う。 復習：(20分)授業内で指摘を受けたポイントに留意して練習する。							
	15	子どもの歌 弾き歌い(3)演奏発表(歌唱法、伴奏法  まとめ) 予習：(30分)課題曲の歌唱及び伴奏練習を行い、仕上げる。 復習：(15分)課題曲の歌唱及び伴奏について振り返り、自己評価を行う。							
<b>教科書・教材</b>	「日本童謡選集」伊藤玲子編(ドレミ出版社)、「めざせ！ミュージカル・キッズ～歌ってみたい憧れの名曲」清野由紀子編集(ドレミ出版社)								
<b>参考書・参考文献等</b>	「幼稚園教育要領」文部科学省・「保育所保育指針」厚生労働省、必要に応じて資料を配布する。								
<b>履修上の注意等</b>	CD・DVD等で音楽鑑賞をすること。								
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	中学校等の音楽科の授業における弾き歌いの経験、歌唱・鑑賞活動の指導経験を活かして、弾き歌いの歌唱法・伴奏法、また、歌唱・鑑賞についての指導を行う。						

【2507】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科									
ピアノ表現 I			演習	一戸智之	2年	前期	こども発達学科									
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無						
			必修	選択			小学校	幼稚園	保育士							
1	15	30		1				○	□	期末試験	70	有				
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》				《態度・志向性》					期末レポート				
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	《獲得した能力を総合的に利用し、自ら課題へ適し、その課題を解決する能力》	授業内小テスト	10
	○	—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	○		授業内提出物	10	有
														授業内活動	10	有
														その他		
														計	100	
														フィードバックの方法		
														毎時間提出を課している実技レッスン記録表は、担当教員が毎週のレッスン時に確認し、返却する。前期末実技試験終了後、教員からの講評と履修者全員で振り返りを行うとともに、個別的指導を通じて各々の課題を明確化し、継続的な取り組みを促進する。		
当該科目のキーワード	《知識・理解》		音楽理論、音楽用語、基礎的なピアノ奏法									アクティブラーニングの有無(内容)	有			
	《汎用的技能》		鍵盤楽器の基礎的表現、伴奏法													
	《態度・志向性》		計画的・協調学習													
授業概要	「ピアノ基礎Ⅰ・Ⅱ」で学修したピアノ表現技能をさらに発展させるために、それらを音楽教育全般の広い領域のものとして捉え、将来、多様な教材を効果的に指導できるような実力を養成する。様々な拍子やリズムの形態など、音楽理論及び音楽用語等の知識を高め、鍵盤楽器の特性について深く掘り下げていく。また、各人の音楽能力に応じた少人数のグループによる協調学習を取り入れ、学習者基盤の学びを通して教育現場で即応できる汎用的な実践力を養う。なお、受講者のピアノ実技経験は個人によって格差があるため、使用テキストはあらかじめ本人の希望申告による教員との相談によって決定する。											グループワーク、グループディスカッション、協調学習				
授業の到達目標	①第15回目の最終授業日までにバイエルピアノ教則本90番まで終了し、前期15回の授業を通じて基礎的なピアノ奏法及びピアノ奏法に関する基礎知識や技能の修得がなされ、ピアノ演奏技能を問う前期・期末実技試験において、これらの学修成果に基づいた適切な演奏ができる。 ②毎週提出を課しているレッスン記録表の活用が十分になされている。 ③予習・復習をして毎週の授業に臨んでいる。 ④音楽的感性と表現力を養い、幼児・児童期の音楽教育の目的を理解している。															
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上であること。															
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容														
	1	授業の目的、概要と計画、これまで学修したポイントを明確化し共有する 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.62、63を練習する。 復習:(80分)反復記号の注意しながらト音記号とヘ音記号を正しく読譜できるようにする。														
	2	同音連打の連指、指またぎと指くぐりについて 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.64、ハ調長音階、№.65を練習する。 復習:(80分)指のポジションとフォームに注意しながら練習する。														
	3	6度音程と3度音程の重音 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.66～71を練習する。(ト調長音階を除く) 復習:(80分)重音の奏法を理解する。指のポジションとフォームに注意しながら練習する。														
	4	調号と臨時記号について 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.73を練習する。 復習:(80分)臨時記号の意味を理解する。クレシェンド、デクレシェンド、アクセント等に注意しながら練習する。														
	5	三連符の奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.74、76を練習する。 復習:(80分)三連符の奏法を理解する。正しいテンポとリズムで三連符を演奏できるように練習する。														
	6	スタッカートとタイの混合 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.77、79を練習する。 復習:(80分)16小節目のスタッカートとタイを同時に演奏する箇所に注意しながら練習する。														
	7	前期中間実技試験に向けてのリハーサルおよび注意事項の確認 予習:(90分)これまで学修したピアノ奏法のポイントについて確認・整理し、試験課題曲に生かしながら練習する。 復習:(70分)各グループで試験を想定したリハーサルを行い、協調学習を通して相互に課題を明確化し共有する。														
	8	前期中間実技試験及び振り返り(最低到達目標はバイエルピアノ教則本79番とする) 予習:(90分)試験課題曲について改善すべき点を明確化し、弾き直しができないように十分練習する。 復習:(70分)グループワークを通して試験課題曲の演奏を振り返り、改善点を洗い出し、第9回目以降の到達目標及び練習計画を立てる。														
	9	同音連打の練習、弱起の曲の理解 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.81を練習する。 復習:(80分)同音連打では連指番号に注意する。弱起の曲について理解する。														
	10	スケールの奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.83を練習する。 復習:(80分)指またぎと指くぐりの連指番号に注意しながら練習する。														
	11	アレグレットにおける3度音程の重音 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.84を練習する。 復習:(80分)ト音記号とヘ音記号が混在していることから、鍵盤の位置に注意する。以前学修した重音の奏法のポイントを確認する。														
	12	全音符から16分音符までの練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.86を練習する。 復習:(80分)16分音符の意味と奏法を理解する。メトロノームを活用し、正しいリズムとテンポで演奏できるようにする。														
	13	スキップリズムの奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.88を練習する。 復習:(80分)スキップリズムについて理論的に理解し、正しい奏法で演奏できるようにする。														
	14	テヌートとマルカート奏法の練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.90を練習する。 復習:(80分)№.90はこれまで学修した内容が網羅されていることから、正確に読譜し表現力豊かな演奏を目指す。														
	15	前期末実技試験に向けてのリハーサル及び注意事項の確認(最低到達目標はバイエルピアノ教則本90番とする) 予習:(90分)これまで学修したピアノ奏法のポイントを確認・整理し、試験課題曲に生かしながら練習する。 復習:(70分)各グループで試験を想定した発表会を行い、グループディスカッションを通して改善すべき点を明確化し共有する。														
教科書・教材	入門者及び初心者には「全訳バイエルピアノ教則本」(全音楽譜出版社)を使用していくが、すでにバイエル終了程度の実力を有する受講者は、以下の教材を各人の演奏レベルに応じて選曲し、より高度な汎用的ピアノ技能の獲得を目指す。また、適宜、オリジナルの技能習得テキストや歌唱教材を併用し、グループ学習を促進する。主要テキスト:「全訳バイエルピアノ教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバムⅠ」「モーツァルトソナチネアルバム1・2」(以上、全音楽譜出版社)															
参考書・参考文献等	「やさしい楽典」(音楽之友社)															
履修上の注意等	①使用テキストは、初回の授業の中で各人との相談によって決定します。 ②個別指導のため各回の内容については、各人の学修状況により変更する場合があります。															
実務経験との関連	実務経験の有無	有	ピアノ指導者協会における指導及び専属ピアニストとして演奏の経験を持つ教員が、ピアノの基礎的な知識と技能、教材の伴奏方法などについて指導する。													

【2508】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科									
ピアノ表現Ⅱ			演習	一戸智之	2年	後期	こども発達学科									
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無							
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士								
1	15	30		1			○		□	期末試験	70	有				
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》						期末レポート				
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、その課題を解決する能力》	授業内小テスト	10
当該科目の キーワード	《知識・理解》		音楽理論、音楽用語、基礎的なピアノ奏法									授業内提出物	10	有		
	《汎用的技能》		鍵盤楽器の基礎的表現、伴奏法									授業内活動	10	有		
	《態度・志向性》		計画的、協調学習									その他				
授業概要	「ピアノ基礎Ⅰ・Ⅱ」で学修したピアノ表現技能をさらに発展させるために、それらを音楽教育全般の広い領域のものとして捉え、将来、多様な教材を効果的に指導できるような実力を養成する。様々な拍子やリズムの形態など、音楽理論及び音楽用語等の知識を高め、鍵盤楽器の特性について深く掘り下げていく。また、各人の音楽能力に応じた少人数のグループによる協調学習を取り入れ、学習者基礎の学びを通して教育現場で即応できる汎用的な実践力を養う。なお、受講者のピアノ実技経験は個人によって格差があるため、使用テキストはあらかじめ本人の希望申告による教員との相談によって決定する。											計	100			
授業の到達目標	①第15回目の最終授業日までにバイエルピアノ教則本104番まで終了し、後期15回の授業を通じて基礎的なピアノ奏法及びピアノ奏法に関する基礎知識や技能の修得がなされ、ピアノ演奏技能を問う前期期末実技試験において、これらの学修成果に基づいた適切な演奏ができる。 ②毎週提出を課しているレッスン記録表の活用が十分にされている。 ③予習・復習をして毎週の授業に臨んでいる。 ④音楽的感性と表現力を養い、幼児・児童期の音楽教育の目的を理解している。											フィードバックの方法				
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上であること。											アクティブラーニングの有無 (内容)	有			
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容														
	1	右手の16分音符のレガート奏法と左手5の指の保持 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.91を練習する 復習:(80分)運指を正確に読み、全体としてドルチェとレガートを意識しながら演奏できるようにする。														
	2	三連符の奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.92を練習する 復習:(80分)右手スラーのかかり方に注意する。左手三連符は滑らかにリズムを正しく弾けるようにする。														
	3	16分音符を含む8分の6拍子の奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.93を練習する 復習:(80分)16分音符が速くならないよう注意する。後半の臨時記号とスタッカーティンモに気を付けて練習する。														
	4	左手の16分音符の練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.94を練習する 復習:(80分)手首を十分に脱力し、ピアノとフォルテ、クレシェンドを意識しながらアレグレットのテンポで弾けるよう練習する。														
	5	6度音程の重音の奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.95を練習する 復習:(80分)手首や腕に力が入りすぎないよう注意し、左手のスラーとタイを正確に読み、全体が重くならないよう練習する。														
	6	16分音符を含む8分の3拍子の奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.96を練習する 復習:(80分)ハ長調からヘ長調への転調に注意する。指ぐりや指またぎに注意し、レガートで演奏できるようにする。														
	7	後期中間実技試験に向けてのリハーサル及び注意事項の確認 予習:(90分)これまで学修したピアノ奏法のポイントについて確認・整理し、試験課題曲に生かしながら練習する。 復習:(70分)各グループで試験を想定したリハーサルを行い、協調学習を通して相互に課題を明確化し共有する。														
	8	後期中間実技試験および振り返り(最低到達目標はバイエルピアノ教則本96番とする) 予習:(90分)試験課題曲について改善すべき点を明確化し、弾き直しができるように十分練習する。 復習:(70分)グループワークを通して試験課題曲の演奏を振り返り、改善点を洗い出し、第9回目以降の到達目標及び練習計画を立てる。														
	9	スキップリズムを伴う弱起の曲の練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.98を練習する 復習:(80分)左手のスタッカーティンと右手のスタッカーティンモを意識しながらスキップリズムを正しく刻めるよう練習する。														
	10	装飾音(前打音)の奏法 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.100、№.101を練習する 復習:(80分)№.100は、左手5の指の保持に気を付け、装飾音の奏法を理解する。左右の交差とスタッカートに注意して練習する。														
	11	16分音符の順次進行の練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.100、№.101を練習する 復習:(80分)№.101は、16分音符はテンポが崩れやすいことから、メトロノームを適宜活用し、リズムを正確に演奏できるようにする。														
	12	複付点のリズムの練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.102、№.104を練習する 復習:(80分)№.102は、左手5の指を保持しながら、複付点のリズムを正確に演奏できるようにする。														
	13	付点のリズムと16分音符の順次進行の練習 予習:(80分)「全訳バイエルピアノ教則本」№.102、№.104を練習する 復習:(80分)№.104はこれまで学修した内容が網羅されていることから、正確に読譜し表現力豊かな演奏を目指す。														
	14	試験課題曲の個人レッスン 予習:(80分)グループワークを通して試験課題曲を選択し、改善すべきポイントを明確化し演奏に反映させる。 復習:(80分)試験課題曲を暗譜で演奏できるようにする。														
15	後期期末実技試験に向けてのリハーサル及び注意事項の確認(最低到達目標はバイエルピアノ教則本104番とする) 予習:(90分)これまで学修したピアノ奏法のポイントを確認・整理し、試験課題曲に生かしながら練習する。 復習:(70分)各グループで試験を想定したリハーサルを行い、グループディスカッションを通して改善すべき点を明確化し共有する。															
教科書・教材	入門者及び初心者には「全訳バイエルピアノ教則本」(全音楽譜出版社)を使用していくが、すでにバイエル終了程度の実力を有する受講者は、以下の教材を各人の演奏レベルに応じて選曲し、より高度な汎用的ピアノ技能の獲得を目指す。また、適宜、オリジナルの技能習得テキストや歌唱教材を併用し、グループ学習を促進する。主要テキスト:「全訳バイエルピアノ教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバムⅠ」「モーツァルトソナチネアルバムⅠ・2」(以上、全音楽譜出版社)															
参考書・参考文献等	「やさしい楽典」(音楽之友社)															
履修上の注意等	①使用テキストについては、初回の授業の中で各人との相談によって決定します。 ②個別指導のため各回の内容については、各人の学修状況により変更する場合があります。															
実務経験との関連	実務経験の有無	有	ピアノ指導者協会における指導及び専属ピアニストとして演奏の経験を持つ教員が、ピアノの基礎的な知識と技能、教材の伴奏方法などについて指導する。													

【2509】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科							
造形表現A			演習	工藤千華	2年	前期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無				
			必修		選択		小学校	幼稚園	保育士					
1	15	30			1		小学校	○	□	期末試験	無			
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート	無	
	○		○		○		○		○			授業内小テスト	無	
	○		○		○		○		○			授業内提出物	70	有
	○		○		○		○		○			授業内活動	30	有
										その他				
										計	100			
										フィードバックの方法				
										制作時間の確保・技術面の指導				
										アクティブラーニングの有無(内容)		有		
										個人の造形活動、グループにおける共同活動				
										表現(造形)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。				
										到達目標①～③の合計が60点以上であること。				
										回				
										内容				
										1 造形教育の意義と幼児期の造形に関する発達を理解する。 予習:(分) 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										2 ①エリックカール 色の魔法を学ぼう。「エリックの色紙」づくり 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										3 ①エリックカール 色の魔法を学ぼう。「エリックの色紙」づくり 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										4 ②身近な素材「紙」について学ぼう。「ちぎり絵」、製作 予習:(分)30 授業内容について事前に学習する。 復習:(分)15 製作のまとめを行う。				
										5 ③造形の基礎知識を学ぼう。絵具類・筆の活用法を知り応用する術を学ぶ「デカルコマニー」「糸引き絵」 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										6 ③造形の基礎知識を学ぼう。絵具類・筆の活用法を知り応用する術を学ぶ「吹き絵」「流し絵」「シャボン玉絵」 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										7 ④素材についての理解を深める。フェルトペン・クレヨン・パスの活用法を知り応用する術を学ぶ「フロッタージュ」 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										8 ④素材についての理解を深める。フェルトペン・クレヨン・パスの活用法を知り応用する術を学ぶ「スクラッチ」 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										9 ⑤造形あそび「スタンプ」による教材研究。たんぼ 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										10 ⑤造形あそび「スタンプ」による教材研究。ステンシル・手型足型 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										11 ⑥身近な素材による教材研究。「紙コップ」による人形劇づくり、グループでの話し合い。 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 次の授業に向けてアイデアをまとめる。				
										12 ⑥身近な素材による教材研究。「紙コップ」による人形劇づくり、対話型鑑賞法 予習:(分)30 グループ内でのアイデアをまとめ必要な材料を集める。 復習:(分)15 授業内容の振り返りを行う。				
										13 ⑥身近な素材による教材研究。「紙コップ」による人形劇づくり、対話型鑑賞法 予習:(分)30 グループ内でのアイデアをまとめ必要な材料を集める。 復習:(分)15 授業内容の振り返りを行う。				
										14 ⑥身近な素材による教材研究。「新聞紙」による遊び。 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										15 ⑥身近な素材による教材研究。粘土による感触遊び。 予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。内容はその前の回に伝える。 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。				
										教科書・教材 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』				
										参考書・参考文献等 「生活事例からはじめる造形表現」青踏社・「保育をひらく造形表現」明文書林・随時必要に時応じて資料配布する。				
										履修上の注意等 絵の具セット、クレパス、画用紙を持参する。衣服が汚れる場合もあります、トレーニングウェア、エプロン着用での受講可				
										実務経験との関連 実務経験の有無 有 保育士として私立保育園に勤務、保育所における造形指導の実務を行う。実務経験をもとに造形に関する知識や技能等を指導する。				

[2510] 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
造形表現B			演習	工藤千華	2年	後期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
1	15	30		1		小学校	○	□	期末試験	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 授業内活動 その他	
	○	—	○	○	—	—	○	○		計 100
	フィードバックの方法									
	<b>当該科目のキーワード</b> ≪知識・理解≫ 造形的な発達と支援のあり方 ≪汎用的技能≫ 非言語系によるコミュニケーション能力 ≪態度・志向性≫ 造形表現を通じたチームワークと計画性									
<b>授業概要</b>	幼児や児童の表現意欲と心身の発達課題を知ると共に、自分の手でものを生み出す喜びを実感する。身近な素材「紙」をはじめとする素材の魅力を理解し用具や加工技術を学び、ものづくりの楽しさを知る。								個人の造形活動、グループにおける共同活動	
<b>授業の到達目標</b>	幼児における造形表現の意義や造形的な発達の特徴を理解し、様々な素材との出会いを通して多様な表現方法や基本的な用具・材料の扱い方を習得する。感じたことや考えたこと、学んだことなどを自分なりに表現することができる。									
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上であること。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	幼児や児童教育における安全と創造的な活動の意義について。表現活動におけるあり方について。 予習:(分) 復習:(分)30 授業の振り返りを行う。								
	2	身近な素材・紙。「ポップアップカード」を作ろう。内容はその前の会に伝える。 予習:(分)15 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。						予習:(分)15 授業内容について事前に学習する。		
	3	①絵本づくり 作りたい絵本をイメージする。 予習:(分)15 復習:(分)30 授業内容について事前に学習する。内容はその前の会に伝える。 ②「パネルシアター」グループ別にオリジナルコンセプトを検討する。対象の幼児に何をたてるか。 予習:(分)15 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。								
	4	①絵本づくり 絵本づくりの素材・技法研究。 予習:(分)30 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。 ②「パネルシアター」共同製作なので分担して構成・組み立てる。 予習:(分)15 復習:(分)30 授業内容の振り返りを行う。								
	5	①絵本づくり 作りたい絵本の具体的構想。 予習:(分)30 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめ必要な材料を集めておく。 ②「パネルシアター」対象の幼児へのテーマ・内容・デザインの検討、アイデアスケッチ 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	6	①絵本づくり 試作と応用。 予習:(分)15 復習:(分)15 次の授業に向けてのアイデアをまとめ必要な材料を集めておく。 ②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	7	①絵本づくり 試作と応用。 予習:(分)30 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめ必要な材料を集めておく。 ②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	8	①絵本づくり 完成。 予習:(分)30 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。 ②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	9	「ポップアップカード」「手作り絵本」の発表と鑑賞会。 予習:(分)30 復習:(分)15 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	10	②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	11	②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	12	②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	13	②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	14	②「パネルシアター」発表会のシナリオ練習 完成 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
	15	鑑賞会 グループ発表会とまとめ 予習:(分)15 復習:(分)30 次の授業に向けてのアイデアをまとめる。								
<b>教科書・教材</b>	『幼稚園教育要領』文部科学省『保育所保育指針』厚生労働省									
<b>参考書・参考文献等</b>	「生活事例からはじめる造形表現」青踏社・「ときめきパネルシアターみんなあつまれパネルのまに」東洋文化出版・随時必要に応じて資料配布する。									
<b>履修上の注意等</b>	絵の具セット、クレパス、画用紙を持参する。衣服が汚れる場合があります、トレーニングウェア、エプロン着用での受講可。									
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	保育士として私立保育園に勤務、保育所における造形指導の実務を行う。実務経験をもとに造形に関する知識や技能等を指導する。							

【2511】 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
子どもの運動あそび I			演習	小関潤子	2年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士				
1	15	30		1		○		□	期末試験			
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》		
	○	—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	○
<b>当該科目の キーワード</b>	≪知識・理解≫		運動発達・運動遊び							授業内ミニペーパーをまとめ解説する。必要に応じたVTRの使用  アクティブラーニングの有無(内容) 有		
	≪汎用的技能≫		課題発見力・主体性・能動的言動									
	≪態度・志向性≫		自主的活動・自己表現・協同的活動									
<b>授業概要</b>	領域「健康」の指導基盤となる基礎的知識技能を身につけ、体を動かす楽しさや爽快感を体験することで、運動遊びが幼児の「心と体を育てること」の意義や必要性を考える。 幼児の生活は「遊び」が中心である。その中でも「運動あそび」は心とからだの育みに影響を与えることから、これに対する理解を深め自ら健康で安全な生活を作り出す能力を養う。											
<b>授業の到達目標</b>	1、幼児の運動遊びに興味関心をもち、運動発達に即した身体活動に取り組むために必要な基礎理論と技術を習得する 2、自らが積極的に運動遊びを実践し、その体験や活動を通して、保育者の援助や役割について知る 3、幼児の発達と遊びの系列についての知識と技能を、安全を考慮しながら身につける											
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上であること。											
<b>授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)</b>	回	内 容										
	1	授業の概要(目的・計画・履修上の留意事項・評価)について解説する 予習:(20分) 幼児期の遊びについて考えてくる 復習:(30分) 授業で出た遊びを分類分けする										
	2	領域「健康」のねらい・内容について 幼児期における身体活動の現状と問題点を考える 予習:(20分) 現状と問題点を挙げ、自分の考えをまとめる 復習:(30分) 対策や解決方法をまとめる										
	3	乳幼児の運動発達の特徴を理解する からだ遊びの体験① 予習:(20分) 体験を思い出して書き出す 復習:(30分) 動きを分類する										
	4	乳幼児期の運動遊びの意義と楽しさの重要性について理解する からだ遊びの体験② 予習:(20分) 体験を思い出して書き出す 復習:(30分) 動きを分類する										
	5	遊びと社会性の発達(1)じゃんけん遊びの体験 予習:(20分) 体験を思い出して書き出す 復習:(30分) 遊びを分類する										
	6	遊びと社会性の発達(2)鬼遊びなどの集団遊びの体験 予習:(20分) 体験を思い出して書き出す 復習:(30分) 人数毎に遊びを分類する										
	7	集団遊び、ゲーム遊びの意義と実際 予習:(20分) 集団遊びとゲームの関連を考える 復習:(30分) 集団・ゲームのそれぞれに意義と展開についてまとめる										
	8	幼児期の発達に即した運動遊びの効果を高める具体的な取り組み(1)年代別に工夫した遊びと製作 予習:(20分) 幼児期の遊びを家族に聞いたり思い出して書き出す 復習:(30分) 年代ごとの特徴をまとめる										
	9	幼児期の発達に即した運動遊びの効果を高める具体的な取り組み(2)模倣遊びとその意義 予習:(20分) 家族に聞いたり思い出して書き出す 復習:(30分) 年代ごとの特徴をまとめる										
	10	幼児期の発達に即した運動遊びの効果を高める具体的な取り組み(3)リズム遊び・表現の体験 予習:(20分) 家族に聞いたり思い出して書き出す 復習:(30分) 特徴をまとめる										
	11	遊びの分類及び運動遊びの教育的価値について考える 予習:(20分) 遊びを思い出して書き出す 復習:(30分) 分類分けとその意義をまとめる										
	12	天野式幼児リトミックの概要と運動としての活用・展開について理解する 予習:(20分) リズミカルな動きを挙げる 復習:(30分) 運動とリズムの組み合わせをまとめる										
	13	リトミック(手足の音符表現)を使った動きの体験とグループワーク 予習:(20分) 生活の中にあるリズムを感じる動きを挙げる 復習:(30分) リズム変化と運動との関連をまとめる										
	14	手あそびの分類の理解 グループワークでの体験 予習:(20分) 遊びを思い出して書き出す 復習:(30分) 分類分けとその意義をまとめる										
	15	技術の確認とまとめ 予習:(20分) 動きの練習 復習:(40分) 学習のまとめ										
<b>教科書・教材</b>	保育と幼児期の運動遊び / 保育内容 健康											
<b>参考書・参考文献等</b>	文部科学省「幼稚園教育要領解説」(フレーベル社) 厚生労働省「保育所保育士新解説書」(フレーベル社) 日本発達障害学会編「幼児期運動指針実践ガイド」(杏林書院) 杉原隆、川邊貴子他「幼児期における運動発達と運動遊びの指導」(ミネルヴァ書房)											
<b>履修上の注意等</b>	子どもの心情を理解し、常に子どもの目線で取り組むこと。安全に運動するために適した服装や髪型(長い髪の方は髪を結ぶ)で受講すること。指定されたシューズを準備する。											
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有	幼稚園・保育園・小学校等での運動・健康作り指導経験を活かした運動遊びについての講義と実技をおこなう									

[2512] 専門教育科目 領域に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科										
子どもの運動あそびⅡ			演習	小関潤子	2年	後期	こども発達学科										
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無								
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士									
1	15	30		1		○		□	期末試験								
学術力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》			期末レポート	20	無						
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	授業内小テスト	20	無	
	○	—	○	—	—	○	○	—	○	○	—	—	○	○	授業内提出物	20	無
															授業内活動	40	無
															その他		
															計	100	
															フィードバックの方法		
当該科目の キーワード	《知識・理解》		運動遊び・集団遊び						授業内ミニペーパーをまとめ解説する。必要に応じたVTRの使用								
	《汎用的技能》		自己表現・課題発見力						アクティブラーニングの有無 (内容)			有					
	《態度・志向性》		受容力・協同的意識														
授業概要	前期の遊びを土台に幼児期の運動遊びが心身の発達に及ぼす影響や効果についてを理論と実技の両面から学習を進める。幼児期の心身の発達と運動遊びとの関連性を系統立てて取り扱う。また、環境整備・安全面の配慮については、具体的な事例をあげて、環境に働きかけながら、運動遊びの援助をすることの重要性を明確にしていく。グループワークを中心とし、多様な教材研究や問題提起を学生自身がを行い、効果的な支援につながるようアクティブラーニングを重視して行う。									グループワーク /グループディスカッション							
授業の到達目標	1、子どもの運動遊びⅠの基礎理論をもとに遊びの展開法を理解し実践・検討をすることで、幼児期の運動あそびに興味・関心をさらに高める 2、遊びの実践検討から、進んで運動する子どもを育てる保育者の援助の仕方を学ぶ。 3、子どもと保育者双方の目線から、援助の仕方を共有発信できるような創意工夫ができる。																
単位認定の要件	到達目標①～③の合計が60点以上であること。																
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容															
	1	授業の概要(目的・計画・履修上の留意点・評価)について解説する 予習:(20分) 前期の振り返り 復習:(30分) 幼児の遊びの発達順序性についてまとめる															
	2	運動遊びの効果を高めるための具体的な展開法や取り組みについて 予習:(20分) 工夫したことを思い出しながら書き出す 復習:(30分) 系統を考えながら段階的な工夫を整理する															
	3	わらべ歌を含む伝承遊びと現代的遊びとの関連性について 手あそびやわらべ歌の活用① 予習:(20分) 経験のある手あそびや指遊びを思い出して実行してみる 復習:(30分) 関連性をまとめる															
	4	鬼遊びの歴史や発達に即した鬼遊びの展開方法の実践 手あそびやわらべ歌の活用② 予習:(20分) 経験のある鬼遊びを思い出し書き出す 復習:(30分) ルールや関連性をまとめて分類する															
	5	現代的な鬼ごっこ(スポーツ鬼ごっこ)の実践と活用について 予習:(20分) ルールの理解をする 復習:(30分) 似ている鬼ごっこの違いをまとめる															
	6	小型移動遊具(ボール・綱)の発達に即した展開方法の実践やわらべ歌の活用③ 予習:(20分) 経験のある遊び歌を思い出したり、家族に聞いて書き出す 復習:(30分) 動きの系統性を考えて展開法をまとめる															
	7	大型遊具の特性の理解と発達に即した遊び方や指導・援助について～安全配慮についての理解 予習:(20分) 実際に遊具に触って、安全性を確認する 復習:(30分) 遊具の意味と活用についてまとめる															
	8	発達に即したマット遊び・跳び箱遊びの体験・指導と援助について 予習:(20分) これまでの経験を書き出す 復習:(30分) 幼児の発達にあつた系統性を考えた展開法をまとめる															
	9	発達に即した鉄棒遊び・平均台遊びの体験・指導と援助について 予習:(20分) これまでの経験を書き出す 復習:(30分) 系統性を考えた展開法をまとめる															
	10	発達に即した表現あそびやリズム(音階表現)の体験・指導と援助について 予習:(20分) これまでの経験を書き出す 復習:(30分) 音階表現とそれを使って表現できる動きの展開をまとめる															
	11	素材を使った遊びⅠ(新聞紙)の体験とグループワークでの教材研究 予習:(20分) これまでの経験を書き出す 復習:(30分) 考えた展開法をまとめる															
	12	素材を使った遊びⅡ(タオル・風呂敷など)の体験とグループワークでの教材研究 予習:(20分) これまでの経験を書き出す 復習:(30分) 考えた展開法をまとめる															
	13	素材を使った遊びⅢ(ビニール袋・風呂敷など)の体験とグループワークでの教材研究 予習:(20分) これまでの経験を書き出す 復習:(30分) 考えた展開法をまとめる															
	14	グループワークによるいろいろな遊具(移動小遊具や素材)を使った遊びの組み立てと展開 予習:(30分) グループで使用する遊具を選び特性をそれぞれに考える。 復習:(30分) 組み立ての効果と評価をまとめ自分なりの工夫をまとめる															
15	技術の確認 ①「遊びの質的変化の読み取り」運動遊びの教育的効果・価値を考察する 予習:(30分) 動作の確認とその身体的効果について考える 復習:(40分) 幼児期の運動遊びの意味や価値等についてまとめる																
教科書・教材	保育と幼児期の運動遊び / 保育内容 健康																
参考書・参考文献等	文部科学省「幼稚園教育要領」厚生労働省「保育所保育士新解説書」(フレーベル社) 運動発達と運動遊びの指導(ミネルヴァ書房)																
履修上の注意等	子どもの心情を理解し、子どもと支援者としての目線と取り組むこと。安全に運動するために適した服装や髪型(長い髪の方は髪を結う)で受講すること。指定されたシューズを準備する。																
実務経験との関連	実務経験の有無	有	幼稚園・保育園・小学校等での運動・健康作り指導経験を活かした運動遊びについての講義と実技をおこなう														



【2601】 専門教育科目 保育内容の指導法に関する科目			授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科							
保育内容総論			演習		安川由貴子		2年	前期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無						
			必修		選択		小学校	幼稚園	保育士							
2	15	30			2			○	○	期末試験	60	無				
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目			≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力					《獲得した能力を総合的に自ら設定し、自ら課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート		
			○	○	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	—
<b>当該科目のキーワード</b>			≪知識・理解≫ 幼児期の教育・保育に関わる基本的知識の理解		≪汎用的技能≫ 保育を展開していく力			≪態度・志向性≫ 保育内容の理解と保育者としての資質の向上					コメント・ペーパーの内容や質問は授業内で適宜共有し、学びを深める手立てとする。	アクティブラーニングの有無(内容)	有	
			幼児期の教育・保育において求められる保育の全体構造と保育内容の基本的な考え方について学ぶ。また、保育の基本を踏まえて、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・観察・記録・評価・改善)につなげて理解する。さらに、保育の多様な展開について学ぶ。	グループディスカッション、発表												
<b>授業の到達目標</b>			保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「ねらい及び内容」の関連を理解し、各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。また、保育内容の基本的な考え方を、保育内容の歴史の変遷を踏まえて、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解し、主体的・対話的で深い学びにつながるような保育を構想する方法を身に付ける。													
<b>単位認定の要件</b>			到達目標に対し、総合的に評価して合計が60点以上であること。													
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)			回	内 容												
			1	保育所、幼稚園、認定こども園の制度・目的・機能 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			2	保育所、幼稚園、認定こども園の実態(視聴覚教材) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			3	保育内容の歴史の変遷 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解①総則 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			5	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解②ねらいと内容 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、今後の自らの保育者としての関わりについて考え、ミニレポートを作成すること。												
			6	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方及び指導案の構成の理解と作成 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			7	養護及び教育が一体的に展開する保育(視聴覚教材の活用を含む) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			8	生活や発達の連続性を考慮した保育(視聴覚教材の活用を含む) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			9	子どもの主体性を尊重する保育 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			10	環境を通して行う保育(視聴覚教材の活用を含む) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			11	生活や遊びによる総合的な保育 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			12	個と集団の発達を踏まえた保育 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			13	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育(視聴覚教材の活用を含む) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			14	保育の多様な展開(長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識を持ち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。												
			15	模擬保育及び模擬保育の振り返りと改善の視点 予習:(90分)指導案を班毎に作成し、模擬保育の流れを確認する。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、保育内容の理解を深め、実践に向けての自己課題を見つけていくこと。												
<b>教科書・教材</b>			レジュメ 資料を配布する。厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。													
<b>参考書・参考文献等</b>			授業内に適宜紹介する。													
<b>履修上の注意等</b>			知識を身に付けるだけでなく、よりよい保育を展開していくために、どのような視点や実践力が必要かを考えながら受講すること。グループワークの機会にも、積極的な参加を期待します。													
<b>実務経験との関連</b>			実務経験の有無	無												

【2603】 専門教育科目 保育内容の指導法に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科				
人間関係の指導法			演習	吉田裕美子	2年	前期	こども発達学科				
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法とフィードバックの有無	
			必修	選択	小学校	幼稚園	保育士				
2	15	30		2		○	○		期末試験		
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 60 有 授業内小テスト 授業内提出物 30 有 授業内活動 10 有 その他 計 100 フィードバックの方法
	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		各年齢段階の人間関係の理解							ノートやレポートなどの提出物にコメントをつけて返却し、授業中に解説する。  アクティブラーニングの有無(内容) 有	
	≪汎用的技能≫		事例検討、ロールプレイ、保育カンファレンス								
	≪態度・志向性≫		グループワーク								
<b>授業概要</b>	実践場面における具体的な事例を通して、乳幼児期にわたる人との関わりの意味について個人の考えをまとめたり、グループで討議する中で探っていく。										
<b>授業の到達目標</b>	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。乳幼児期における人との関わりの発達を踏まえ、幼稚園や保育所における人間関係の大切さや、保育者の援助について理解する。子どもと人間関係を指導するスキルを向上させるために、 ①乳幼児の人間関係の発達プロセスについて理解できる。 ②グループワークに参加し、人間関係の指導に関する意見交換を行い、他者の考えを知る。 ③他者との意見交換を通じて、様々な子どもの人間関係を支援・対応するための着眼点を理解する。										
<b>単位認定の要件</b>	到達目標①～③の合計が60点以上であること										
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容									
	1	保育内容「人間関係」をめぐる視点 予習:(30分) 領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取扱い 復習:(15分) 人間関係をめぐる問題と領域「人間関係」の意義									
	2	領域「人間関係」と保育の実践①～乳児保育に関わるねらい及び内容～ 予習:(30分) 事例検討 復習:(15分) 0～2歳児における人との関わりの発達と保育者の援助									
	3	領域「人間関係」と保育の実践②～3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容～ 予習:(30分) 事例検討 復習:(15分) 3～5歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助									
	4	遊びの中で育つ人とのかかわり①～遊びの意義と重要性「保育における遊びの大切さ」「遊びと仲間関係」 予習:(30分) 遊びや生活の中で育む人と関わる力 復習:(15分) 遊びの中で友達とつながるおもしろさを探求する。									
	5	遊びの中で育つ人とのかかわり②～けんかやいざこざから生まれるもの「相手の気持ちを考える」「協同性の育ち」 予習:(30分) 事例検討 復習:(15分) 事例を通して学ぶ保育者の関わり									
	6	人とのかかわりを育てる保育の実践 「保育の中で気になる子どもの姿」 予習:(30分) 事例検討 復習:(15分) 事例を通して学ぶ保育者の関わり									
	7	人とのかかわりが難しい子どもへの支援 「園生活に馴染めない子の育ち」「悩む親を支える」 予習:(30分) 事例検討 復習:(15分) 事例を通して家庭との連携について学ぶ									
	8	保育における個の育ちと集団の育ちについて「集団の中での役割と責任・道徳性のめざえ」 予習:(30分) 集団の種類 復習:(15分) 個から集団の育ち合いのプロセス									
	9	家族や地域とのかかわりと育ち 予習:(30分) 家庭や地域の中で生まれる子ども同士の関わり 復習:(15分) 地域で支える子育て支援									
	10	領域「人間関係」と小学校とのつながり 予習:(30分) 小学校との連携・接続 復習:(15分) 幼・保・認と小の連携及び接続に求められるもの									
	11	子ども理解から保育をつくる 予習:(30分) 模擬保育について 復習:(15分) 模擬保育についての手順や流れの把握、準備の確認をする。									
	12	領域の相互の関連性と保育展開①～指導計画の意義・作成・実践例～「3歳児の指導計画と実践」 予習:(30分) 模擬保育3歳児について 復習:(15分) 模擬保育についての反省と振り返り、講評。									
	13	領域の相互の関連性と保育展開②～指導計画の意義・作成・実践例～「4歳児の指導計画と実践」 予習:(30分) 模擬保育4歳児について 復習:(15分) 模擬保育についての反省と振り返り、講評。									
	14	領域の相互の関連性と保育展開③～指導計画の意義・作成・実践例～「5歳児の指導計画と実践」 予習:(30分) 模擬保育5歳児について 復習:(15分) 模擬保育についての反省と振り返り、講評。									
	15	領域「人間関係」の現代的課題を考える 予習:(30分) 演習の振り返りとその先の課題 復習:(15分) 筆記試験									
<b>教科書・教材</b>	演習 保育内容 人間関係—基礎的事項の理解と指導法—、建帛社、田代和美・榎本真実										
<b>参考書・参考文献等</b>	「保育所保育指針」(平成29年告示)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編										
<b>履修上の注意等</b>	グループワークに積極的に参加し、他者と議論を行うこと。議論した内容や各班の意見を整理し、よくまとめておくこと。										
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無									

【2605】 専門教育科目 保育内容の指導法に関する科目			授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科							
言葉の指導法			演習		船水周		2年	後期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無						
			必修		選択		小学校	幼稚園	保育士							
2	15	30			2		小学校	○	○	期末試験						
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目			≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート	30	無	
			授業内小テスト	20	有	授業内提出物	20	有	授業内活動	30	有		その他			
											計	100				
											フィードバックの方法					
<b>当該科目のキーワード</b>			≪知識・理解≫ 言葉の発達									①時間内に教師が答えを発表し、学生に自己採点させる。 ②提出物等の結果は、ICTの活用や口頭により、全体に解説する。				
			≪汎用的技能≫ 言葉の環境・援助													
			≪態度・志向性≫ 伝え合う												アクティブラーニングの有無(内容)	有
<b>授業概要</b>			領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深めたり、指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けたりするため、主体的・対話的で深い学びが実現するように、模擬保育、協議のほか、ICTの活用を積極的に取り入れる。									演習、個別・ペア・グループワーク学習等				
<b>授業の到達目標</b>			①幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な保育場面を構想する方法を身に付ける。													
<b>単位認定の要件</b>			到達目標①～②の合計が60点以上であること。													
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)			回	内 容												
			1	保育における言葉とは—幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			2	子どもの言葉の発達過程(1)—言葉を生む基礎と話し言葉の発達の道筋 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			3	子どもの言葉の発達過程(2)—書き言葉の発達の道筋と小学校「国語科」との関係・幼小連携を目指した保育 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			4	言葉を育む環境構成と援助(1)—話す・聞く意欲を持たせるための援助 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			5	言葉を育む環境構成と援助(2)—日常生活に必要な言葉を習得させるための援助 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			6	言葉を育む環境構成と援助(3)—言葉のすれ違い、伝え合いのもどかしさ等への援助(具体的な保育場面を想定した指導案作成) 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			7	言葉を豊かにする環境構成と援助(1)—言葉で伝え合う喜びを味わわせるための援助(模擬保育の教材研究・読み聞かせる絵本の選択と練習①) 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			8	言葉を豊かにする環境構成と援助(2)—文字等で伝える楽しさを味わわせるための援助(模擬保育の教材研究・読み聞かせる絵本の選択と練習②) 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			9	言葉を育てる児童文化と地域文化(1):言葉を育てる児童文化財—絵本・物語・紙芝居等の生かし方 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			10	言葉を育てる児童文化と地域文化(2):仲間を育てる文化財—地域の暮らしとあそび文化 授業内小テスト① 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			11	言葉の育ちにかかわる諸問題—子どもの言葉を育む保育の実践①—模擬保育の実施(絵本の読み聞かせ等) 授業内小テスト② 予習:(30分)授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を読んで、確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
			12	子どもの言葉を育む保育の実践②—模擬保育の実施(絵本の読み聞かせ等) 授業内小テスト③ 予習:(30分)模擬保育の発表者は、事前の準備、練習をしっかりと行っておくこと 復習:(60分)自他の模擬保育を比較して、気付いたこと・思ったことを箇条書きにもまとめること												
			13	子どもの言葉を育む保育の実践③—模擬保育の実施(絵本の読み聞かせ等) 授業内小テスト④ 予習:(30分)模擬保育の発表者は、事前の準備、練習をしっかりと行っておくこと 復習:(60分)自他の模擬保育を比較して、気付いたこと・思ったことを箇条書きにもまとめること												
			14	子どもの言葉を育む保育の実践④—模擬保育の実施・振り返り 授業内小テスト⑤ 予習:(30分)模擬保育の発表者は、事前の準備、練習をしっかりと行っておくこと 復習:(60分)自他の模擬保育を比較して、気付いたこと・思ったことを箇条書きにもまとめること												
			15	子どもの言葉を育む保育の評価と改善—授業全体の振り返り(幼児の終わりまでに育てほしい姿「10の姿」等) 授業内小テスト⑥ 予習:(30分)これまでの授業内容について、教科書の該当箇所、資料等を見て確かめておくこと 復習:(60分)授業で学習したポイントを箇条書きで整理するとともに、気付きや考えもまとめること												
<b>教科書・教材</b>			小田 豊・芦田 宏 編著『保育内容 言葉』(北大路書房) レジューメ													
<b>参考書・参考文献等</b>			厚生労働省『保育所保育指針(フレーベル館) 文部科学省『幼稚園教育要領(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(フレーベル館) 成田朋子 編著『言葉保育実践を支える言葉』(福村出版) 大豆生田啓友・佐藤浩代 編著『言葉の指導法』(玉川大学出版部)													
<b>履修上の注意等</b>			教科書の該当部分等、予習して授業に臨む。													
<b>実務経験との関連</b>			実務経験の有無	有	公立小学校教諭・教頭・校長、教育センター研究員、小・中・高での授業、内地留学、教育雑誌・書籍・新聞コラムの執筆等の実務経験をもとに、幼児期の言葉の指導に関する知識、技能及び小学校教育との接続について理解させ、具体的、実践的に学んでもらう。											

【2704】 専門教育科目 教育の基礎的理解・実践等に 関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科										
道徳教育の指導法			講義	齋藤雅俊	2年	後期	こども発達学科										
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無								
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士									
2	15	30		2	○				期末試験 42 無								
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》			期末レポート								
	基礎知識の体系的 理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーション スキル	数量的 スキル	情報リテラシ ー	論理的 思考力	問題 解決力	自己 管理能力	チーム ワーク	リーダー シップ	倫理観	社会的 責任	生涯 学習力	《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	授業内小テスト	45	有
	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
当該科目の キーワード	《知識・理解》		道徳教育の歴史と学習指導要領の理解									授業内提出物(コメントペーパー) や模擬授業についての感想(まとめ)を返却する。					
	《汎用的技能》		模擬授業での発表や質疑応答														
	《態度・志向性》		模擬授業での協働														
授業概要	・「特別の教科 道徳」の指導のための理論と実践を学ぶ。 ・学校教育において道徳という特別の時間が生まれ、辿ってきた歴史を概観し、学習指導要領の内容や道徳科の特質をふまえたさまざまな指導方法に精通していくことで、これからの道徳教育を創り上げていくための基礎力と応用力を形成していく。												模擬授業の準備、実行等				
授業の 到達目標	①道徳の歴史や理念について理解する。 ②学習指導要領で掲げられている道徳の目標や内容について理解する。 ③道徳教育のさまざまな指導法について理解する。 ④理解したことを指導案の作成や授業実践に生かすことができる。																
単位認定の要件	期末試験(42点)＋授業内提出物(45点)＋模擬授業等の活動(13点)＝60点以上																
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容															
	1	道徳とは何か(理念と本質) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	2	これまでの道徳教育の変遷①(教育史上の流れから) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	3	これまでの道徳教育の変遷②(いじめ・情報モラルなど) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	4	これまでの道徳教育の変遷③(子どもの心と道徳性の発達から) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	5	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容①(A主として自分自身に関する事) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	6	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容②(B主として人との関わりに関する事) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	7	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容③(C主として集団や社会との関わりに関する事) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	8	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容④(D主として生命や自然・崇高なものとの関わりに関する事) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	9	学校における教育活動全体を通じた指導とカリキュラムマネジメント 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	10	道徳科におけるさまざまな指導法の例(道徳教育アーカイブより) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	11	道徳科におけるさまざまな教材とその活用について(道徳教育アーカイブより) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	12	道徳科の特性をふまえた学習評価のあり方(個人内評価)について 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	13	道徳科の指導案作成について 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)															
	14	模擬授業の実践①(A班を中心に) 予習: 担当者は模擬授業の準備をする。(60分) 復習: 担当者は自分が行った活動について振り返る。(60分)															
15	模擬授業の実践②(B班を中心に) 予習: 担当者は模擬授業の準備をする。(60分) 復習: 担当者は自分が行った活動について振り返る。(60分)																
教科書・教材	文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』(※インターネット等でダウンロードしてもよい)																
参考書・ 参考文献等	パワーポイントによるまとめプリントを随時配布する。なお、配布物が多いため、各自綴じするためのファイルを用意すること。																
履修上の 注意等	新聞・テレビ等の教育関連情報に関心をはらうこと。また、出欠の不正(中抜け、無断退出、代返、コメントペーパー代筆等)の他、成績評価に関わる全ての不正については単位認定を不可とする場合がある。																
実務経験との 関連	実務経験の有無	無															

【2707】 専門教育科目 教育の基礎的理解・実践等に 関する科目			授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科					
教育方法・技術(情報通信技術の活用含む)			講義		森本洋介		2年	後期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無				
2	15	30	必修		選択		小学校	幼稚園	保育士					
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》				《態度・志向性》					《獲得した能力 を総合的に 利用し、 自ら設定し た課題へ適 用し、その 課題を解決 する能力》		
	基礎知識の体系的 理解	多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーション スキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ		倫理観	社会的責任
	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	○	○	○
当該科目の キーワード	《知識・理解》		主体的・対話的で深い学び									授業内活動については各回授業の 最後の5分程度を用いてフィード バックを行う。授業内提出物につ いては評価を行ったものを本人に返 却する。		
	《汎用的技能》		メディア・リテラシー											
	《態度・志向性》		探究力											
授業概要	本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法および評価方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目も重要であるが、自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることにより重点を置いて授業を進める。											PBL、グループワーク、探究学習		
授業の 到達目標	教育技術と教育評価の基本的な理論と事項について理解する。主体的・対話的で深い学びの実現における基本的な要素を理解する。そのうえで、それらを実践するための基本的なスキルを獲得する。また、主体的・対話的で深い学びにおける学習者の学びをどのように評価するのか、パフォーマンス評価の方法についても理解する。													
単位認定の要件	到達目標の理解が60%以上であること。													
授業計画 (予習、復習の内容 ・時間含む)	回	内 容												
	1	オリエンテーション 予習:(90分) 復習:(180分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。自分で興味のあることについて調べる。												
	2	教育技術の基本(教材、教授行為、学習形態) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	3	主体的・対話的で深い学びの原理 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	4	主体的・対話的で深い学びの実践①問題解決型学習(問題提起編) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	5	主体的・対話的で深い学びの実践②問題解決型学習(解決編) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	6	主体的・対話的で深い学びの実践③テキスト分析 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	7	主体的・対話的で深い学びの実践④背景分析 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	8	授業におけるICT機器の活用 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	9	学習評価に関する理論 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	10	真正の評価①(ルーブリックとは何か) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	11	真正の評価②(ルーブリック作成演習) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	12	パフォーマンス課題の設計(設計編) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	13	主体的・対話的で深い学びの実践⑤ワールドカフェ 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	14	パフォーマンス課題の設計(検討編) 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
	15	教育方法論に関する総合的な演習 予習:(90分)当該授業内容について事前に学習しておく。内容はその前の回に伝える。 復習:(90分) 当該授業内容について自身で振り返りを行う。												
教科書・教材	特になし。適宜配布する。													
参考書・ 参考文献等	ルネ・ホプス、デビッド・クーパー、ムーア著：森本洋介監訳『メディア・リテラシー教育と出会う—小学生がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』弘前大学出版会、2016年3月													
履修上の 注意等	可能であればパソコン等を持ち込み、インターネットを授業中に使用できる環境を整えること。授業中の活動においてインターネットを使用することがある。受講者数や進行状況次第で予定が多少前後する可能性がある。													
実務経験との 関連	実務経験 の有無	無												

【2805】 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科								
子ども家庭支援の心理学			講義	秋臺美紀	2年	後期	こども発達学科								
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無						
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士							
2	15	30		2				○	期末試験						
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的 理解		≪汎用的技能≫ コミュニケーション スキル			≪態度・志向性≫ 自己 管理 力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、適切な課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート					
	多文化・異文化	文化・社会・自然	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	チームワーク	リーダーシップ		倫理観	社会的責任	生涯学習力	授業内小テスト	72	有
	○	○	—	○	—	—	—	○		—	—	—	授業内提出物		
	○	○	—	○	—	—	—	○		—	—	—	授業内活動	28	有
		計		100		フィードバックの方法									
<b>当該科目のキーワード</b>		≪知識・理解≫ 子育て家庭の現状と家族発達の理解		≪汎用的技能≫ 子育て家庭における心理的支援の検討			≪態度・志向性≫			第15回目の講義で試験を実施し、講義内でその解説を行う。コメントペーパーは確認後返却し、講義内においてフィードバックする。					
<b>授業概要</b>		子どもにとって最も身近な社会集団である家族について理解するために、現代家族を取り巻く状況、家族発達のプロセス、子育てにおける問題とその援助等について概観する。また、授業を通して、「家族の役割」について問い、子どもとその家庭の包括的な支援方法を考える力の修得を目的とする。									<b>アクティブラーニングの有無(内容)</b> 無				
<b>授業の到達目標</b>		子どもとその家庭の包括的な支援方法を考える力を修得するために ①現代家族の社会的状況と課題について理解できる。 ②家族発達のプロセスと各段階の特徴を理解できる。 ③子どもの精神保健と親の役割について理解できる。													
<b>単位認定の要件</b>		到達目標①～③の合計が60点以上であること。													
<b>授業計画(予習、復習の内容・時間含む)</b>		回	内 容												
		1	子どもがいる家庭を理解・支援する意義 予習:(90分) 家族の定義の変遷について調べる。 復習:(90分) 家族の役割、機能について理解を深める。												
		2	家族システムと家族発達 予習:(90分) 家族システム論とはなにか調べる。 復習:(90分) 直線的因果律、円環的因果律の理解、家族ライフサイクル理論について理解を深める。												
		3	乳幼児期～児童期の発達と家族の理解 予習:(90分) 乳幼児期、幼児期、児童期の心理的課題と危機について調べる。 復習:(90分) いやいや期への対応、非認知能力に関する実験について理解を深める。												
		4	思春期・青年期の発達と家族の理解 予習:(90分) 思春期・青年期に生じやすい心の問題について調べる。 復習:(90分) 思春期・青年に生じる様々な心理社会的変化と、問題について理解を深める。												
		5	成人期～老年期の発達と家族の理解 予習:(90分) 成人期・中年期・老年期の発達課題と危機について調べる。 復習:(90分) 成人期・中年期・老年期で生じやすい心理的問題やその対処・予防について理解を深める。												
		6	子育て経験と親としての育ち 予習:(90分) マタニティブルー・産後うつについて調べる。 復習:(90分) 産褥期に発生する精神障害、父親の成長、育児期に生じやすい問題について理解を深める。												
		7	子育てを取り巻く社会的状況 予習:(90分) 少子化に至った社会的背景について調べる。 復習:(90分) 未婚化・晩婚化の進行、夫婦の出生力の低下、少子化による子どもたちへの影響について理解を深める。												
		8	ライフコースと仕事と子育て 予習:(90分) ワークライフバランスのための社会政策について調べる。 復習:(90分) 育児期における家事・育児と仕事の両立、家庭・仕事に偏ることの問題について理解を深める。												
		9	多様な家庭の理解①ひとり親家庭、ステップファミリー 予習:(90分) ステップファミリーとはなにか、生じやすい問題について調べる。 復習:(90分) 離婚家庭による子どもへの影響、貧困家庭の現状、ステップファミリーについて理解を深める。												
		10	多様な家庭の理解②精神障害を抱える親(不安障害) 予習:(90分) 不安障害、パニック障害とはなにか調べる。 復習:(90分) 不安障害の分類、対応、治療について理解を深める。												
		11	多様な家庭の理解③精神障害を抱える親(気分障害) 予習:(90分) 気分障害とはなにか調べる。 復習:(90分) 気分障害の種類、対応、治療について理解を深める。												
		12	乳幼児～児童期の心理的問題①小児心身症 予習:(90分) 小児心身症とはなにか、どのようなときに発症するのか調べる。 復習:(90分) アトピー性皮膚炎・過敏性腸症候群・夜尿の症状と対応について理解を深める。												
		13	乳幼児～児童期の心理的問題②分離不安症・緘黙 予習:(90分) 緘黙とはなにか調べる。 復習:(90分) 愛着の問題による分離不安、緘黙の症状の特徴と対応について理解を深める。												
		14	授業内試験 予習:(90分) これまでの復習 復習:(90分) 試験内容の復習												
		15	まとめ・解説・子ども家庭支援の意義に関するグループワーク 予習:(90分) 子どもがいる家庭を理解する意義について改めて考える。 復習:(90分) 家庭支援の上で重要なポイントと自分自身と課題を考える。												
<b>教科書・教材</b>		特になし													
<b>参考書・参考文献等</b>		原信夫・井上美鈴(編)「子ども家庭支援の心理学」(北樹出版)													
<b>履修上の注意等</b>		配布資料はよく整理し保管しておくこと。													
<b>実務経験との関連</b>		<b>実務経験の有無</b>	有	臨床心理士として病院や学校で子どもやその家族を援助した経験から、子ども家庭を支援するための心理学的知識について講義する。											

【2806】 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
保育の計画と評価			講義	江珂川淳子	2年	前期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
2	15	30		2				○	期末試験	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》 期末レポート 50 有 授業内小テスト 授業内提出物 40 有 授業内活動 10 有 その他 計 100 フィードバックの方法	
	○	—	○	○	○	○	○	○		
	○	—	○	○	○	○	○	○		
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		全体的な計画、教育課程、10の姿、5領域 指導計画 保育の評価、保育の質の向上			期末レポートは、コメント等をつけて返却する。模擬保育の指導案は受講者分を印刷し、内容を共有する。質問は授業内に適宜共有し、学びを深める手立てとする。 アクティブラーニングの有無(内容) 有				
授業概要	子どもの発達理解を深めながら、保育の計画や評価についての基礎や意義を学び、現場で求められる指導計画の立案方法について、基本的知識を習得する。また、保育における計画、実践、記録、省察、評価、改善に基づいた保育実践を追求し、保育の営みについて理解を深める。								模擬保育	
授業の到達目標	子どもの理解に基づき、全体的な計画や教育課程の指導計画の作成について、その意義や具体的な方法について理解し立案する。また、PDCAサイクルの過程において、その全体的な構造を捉えながら、理解を深める。									
単位認定の要件	到達目標の合計が60点以上であること。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	保育の基本について 保育の遊びや環境・10の姿について学ぶ 予習:(30分)教科書P7~18の通読 復習:(30分) 復習ワーク①「10の姿、5領域」への取り組み								
	2	全体的な計画・教育課程と指導計画について理解する 予習:(30分)教科書P19~36の通読 復習:(分) 復習ワーク②「教育課程や全体的な計画」への取り組み								
	3	幼稚園・保育所の理解 幼稚園における教育課程と保育所における全体的な計画、そして指導計画の実際について理解する 予習:(30分)教科書P37~92の通読 復習:(30分) 復習ワーク③「幼稚園・保育所の理解」への取り組み								
	4	指導計画の作成の基本とその方法(1) 指導計画の形式や手順、作成方法「子どもの姿」について学び作成する 予習:(30分)教科書P101~109の通読 復習:(30分) 復習ワーク④「子どもの姿」への取り組み								
	5	指導計画の作成の基本とその方法(2) 指導計画の作成方法「ねらいと内容」について学び作成する 予習:(30分)教科書P109~114の通読 復習:(30分) 復習ワーク⑤「ねらいと内容」への取り組み								
	6	指導計画の作成の基本とその方法(3) 指導計画の作成方法「時間・環境構成」「予想される子どもの姿」について学び作成する 予習:(30分)教科書P114~122の通読 復習:(30分) 復習ワーク⑥「時間と環境構成と予想される子どもの姿」への取り組み								
	7	指導計画の作成の基本とその方法について 指導計画の作成方法「保育者の援助」について学び作成する 予習:(30分)教科書P122~126の通読 復習:(30分) 復習ワーク⑦「保育者の援助」への取り組み								
	8	部分案の作成 子どもの姿から部分案「朝の集まり」を作成する 予習:(30分) 配付資料の通読 復習:(30分) 課題①「部分案 朝の集まり」への取り組み								
	9	部分案の作成 乳児、1、2歳児の発達の特徴を捉え、子どもの姿から部分案「2歳児」を作成する 予習:(30分)教科書P138~143と「遊びが〜」教科書P24~41の通読 復習:(30分) 課題②「部分案 2歳児の活動」への取り組み								
	10	部分案の作成 3歳児の発達の特徴を捉え、子どもの姿から部分案「3歳児 製作遊び」を作成する 予習:(30分)教科書P146~147と「遊びが〜」教科書P86~89の通読 復習:(30分) 課題③「部分案 3歳児の製作遊び」への取り組み								
	11	部分案の作成 4歳児の発達の特徴を捉え、子どもの姿から部分案「4歳児 音楽遊び」と製作物を作成する 予習:(30分)教科書P148~149と「遊びが〜」教科書P42~45の通読 復習:(30分) 課題④「部分案 4歳児の音楽遊び」への取り組み								
	12	部分案の作成 5歳児の発達の特徴を捉え、子どもの姿から部分案「5歳児 運動遊び」を作成する 予習:(30分)教科書P150~151と「遊びが〜」教科書P104~107の通読 復習:(30分) 課題⑤「部分案 5歳児の運動遊び」への取り組み								
	13	全日案の作成 一日の流れを捉え、子どもの姿から全日案を作成する 予習:(30分)教科書P167~177の通読 復習:(30分) 課題⑥「全日案」への取り組み								
	14	保育の実践と評価 保育の評価、指導計画と教育課程・全体的な計画の評価、要録の理解について 予習:(30分)教科書P154~161の通読 復習:(30分) 復習ワーク⑧「保育の実践と評価」への取り組み								
	15	保育の実践と評価 模擬保育と実践評価のワーク 予習:(30分)教科書P162~165の通読 復習:(30分) 期末レポートへの取り組み								
教科書・教材	『教育課程・保育の計画と評価—書いて学べる指導計画—』岩崎淳子他著 萌文書林、 『遊びが広がる 保育内容のアイディア』西海聡子(編集)、根本真実・大井美緒・原加奈・堀科、萌文書林									
参考書・参考文献等	『保育所保育指針解説』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『0~5歳児指導計画の書き方がよくわかる本』川原佐公他 ひかりのくに、『実習の記録と指導案』山本淳子編著 ひかりのくに 『映像で学ぶ 幼稚園(認定こども園)教育実習における 主活動の「指導案」と「細案」の書き方』金子亜弥他 株式会社新宿スタジオ									
履修上の注意等	受講に当たり、乳幼児の発達過程について保育所保育指針や幼稚園教育要領を復習しておくこと。また、模擬保育の機会も設けるため、積極的に参加すること。									
実務経験との関連	実務経験の有無	有	幼稚園教諭として保育現場での経験がある教員が、実習に向けての指導の計画や模擬保育を指導する。							

【2809】 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科								
乳児保育Ⅱ			演習	福士 章子	2年	前期	こども発達学科								
単位数	授業回数	時間数	卒業要件				免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無					
			必修		選択		小学校	幼稚園	保育士						
1	15	30			1				○	期末試験					
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に自ら設定し、自ら課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート			
	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○		○	—	○	計
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫ 乳児保育の基礎知識		≪汎用的技能≫ 乳幼児の援助・保育				≪態度・志向性≫ 乳児保育の役割と責任				提出物は、評価したのちに返却する。授業内試験は、採点后、返却し、授業中に解説する。				
<b>授業概要</b>	乳児保育Ⅰで学習した理論を演習を通して実践していく。新生児人形を使って、抱く、あやす、おむつ交換、授乳などの基本的な援助の方法から、乳児を安全に保育する上で欠かせない留意点について学ぶ。また、3歳未満児の保育指導計画を立案し、模擬保育を行った後、乳児が安全に遊べるおもちゃを作成して発表することにより、実践力を身に付けると同時に学生同士で学び合い理解を深める。									実技実習、グループディスカッション					
<b>授業の到達目標</b>	・3歳未満児の発育、発達の過程や特性を理解し、適切な援助方法を習得する。・3歳未満児の生活と遊びの特性を理解し、適切な保育指導計画を立案し、実践する。・乳児保育の社会的な役割について学び、保育者としての責任を理解する。									アクティブラーニングの有無(内容) 有					
<b>単位認定の要件</b>	試験、授業内活動、提出物の合計評価が60点以上の者に単位を認定する。														
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容													
	1	オリエンテーション 乳児保育の役割 新生児の特徴と生活 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	2	乳児との関わり方① 抱き方、おむつ交換、衣服の着脱、発育測定、沐浴【実習】 予習:(45分)実習の内容についてテキスト等を確認し、要点を覚えてくる。 復習:(0分)													
	3	6か月未満の子どもの育ちと保育内容 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	4	乳児との関わり方② 調乳と授乳【実習】 予習:(45分)実習の内容についてテキスト等を確認し、要点を覚えてくる。 復習:(0分)													
	5	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	6	乳児との関わり方③ 離乳食【実習】 予習:(45分)実習の内容についてテキスト等を確認し、要点を覚えてくる。 復習:(0分)													
	7	1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	8	2歳以上3歳未満の子どもの育ちと保育内容 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	9	乳児保育における指導計画①～子どもの1日の流れ(デイリープログラム)と保育環境 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	10	乳児保育における指導計画②～短期指導計画と長期指導計画 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	11	観察・記録及び自己評価 予習:(45分)毎日、新聞やニュースを見て、子どもに関する情報を集めておくこと。(授業内で発表あり) 復習:(0分)													
	12	柴田こども園での観察実習【実習】 予習:(0分) 復習:(0分)													
	13	授業内小テスト / 指導計画の作成 予習:(90分)試験範囲の復習 復習:(0分)													
	14	テストの返却と解説 / 安全に配慮したおもちゃの作成 予習:(45分)作成するおもちゃについて構想を練ってくる。 復習:(0分)													
15	安全に配慮したおもちゃの作成 予習:(45分)締切に間に合うようおもちゃを作成してくる。 復習:(0分)														
<b>教科書・教材</b>	松本 峰雄 監修、池田 りな、才郷 眞弓、土屋 由、堀 科著、乳児保育演習ブック、ミネルヴァ書房														
<b>参考書・参考文献等</b>	「保育所保育指針」(平成29年告示)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編														
<b>履修上の注意等</b>	実習時の服装は、ジャージ、エプロン、名札、長い髪は後ろで1つに結うこと。														
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	無													



[2810] 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科								
障害児保育			演習	若林一哉	2年	後期	こども発達学科								
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無						
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士							
2	15	30		2				○	期末試験						
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》			期末レポート	80	無				
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	授業内小テスト	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	授業内提出物	10	無
													授業内活動	10	無
													その他		
													計	100	
													フィードバックの方法		
当該科目の キーワード	《知識・理解》		障がい特性			《態度・志向性》			協議			アクティブラーニングの有無 (内容)	有		
授業概要	障害児や特別な配慮を要する子どもの特性や関わり方、その保護者に対する支援、そして共に支援していく関係機関について授業を進めて参ります。ノーマライゼーションの理念やインクルーシブ保育・教育システムの本質の捉え方や、子ども一人一人の発達の連続性を尊重する関わり方などを柱として、現場で柔軟に対応できる専門性を養っていきます。また、現在の教育・保育施設や関係機関の現状を把握し、その中で可能な支援や、障がいの捉え方、それぞれの子どもを見つめるスキルを共有し、理解を深めていきます。									グループディスカッション、グループワーク					
授業の 到達目標	①障害の捉え方、考え方の理解 ②障害児保育に至る経緯及び関係法令等の理解 ③障害の特性及び支援に係る基本的事項の理解 ④保護者や家族の受容と支援方法の理解 ⑤障害児や配慮を要する子どもに対する保育の課題の理解														
単位認定の要件	到達目標①～⑤の合計が60点以上であること。														
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容													
	1	障害の捉え方と障害児保育の歴史(「障害がある」という状態、歴史の変遷) 予習:(30分)自身の「障害がある」という状態を想像し、現在の生活での弊害を考える。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	2	障害児保育の基本(障害児保育の対象、障害児保育の理念) 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	3	肢体不自由児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	4	視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	5	知的障害児・言語障害児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	6	自閉症スペクトラム症児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	7	注意欠如多動性障害児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	8	学習障害児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	9	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	10	子ども一人一人の発達を促す遊びと生活の環境 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	11	職員間の協働の重要性 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	12	保護者や家族に対する理解と支援 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	13	関係機関や小学校の理解と連携 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	14	障害児や特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
	15	障害児保育・インクルーシブ教育システム構築の今後の動向と課題を考える 予習:(30分)当Classroom掲示板上にて次回資料を貼り付けますので、事前に熟読しておく。 復習:(30分)授業で行った内容のキーワードを与えるので、それについて自身でまとめる。													
教科書・教材	特になし														
参考書・ 参考文献等	・「保育所保育指針」(厚生労働省) ・「幼稚園教育要領」(文部科学省) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府) ・「実践に生かす障害児保育」(萌文書林) ・「発達が気になる子の個別の指導計画」(Gakken保育Book) ・その他														
履修上の 注意等	・適宜、グループを編成しディスカッションと発表を行います。 ・毎時間、授業内容に関するコメントカードを提出していただきます。														
実務経験との 関連	実務経験の有無	有	認定こども園、児童発達支援センターで実務経験のある教員がその経験を生かして、障害児保育の基本的な知識と手法、考え方について講義する。												

[2811] 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科							
社会的養護 I			講義	増田貴人	2年	前期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無					
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士						
2	15	30		2				○	期末試験 80 有					
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、自ら課題へ適し、その課題を解決する能力》					
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力		チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力
	○	—	○	—	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○
当該科目の キーワード	《知識・理解》		社会的養護						授業内提出物は評価後コメント等とともに返却。試験は採点后合否結果をフィードバックする。					
	《汎用的技能》		児童の最善の利益											
	《態度・志向性》		ソーシャルワーク、保育者としての倫理・資質											
授業概要	社会的養護の理念や原則、歴史、体系、制度、子どもの権利といった基本的考え方、施設養護の実際、保育者としての資質や倫理について講義する。								グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習					
授業の到達目標	社会的養護の理念や原則、子どもの権利といった基本的考え方を理解することができる。													
単位認定の要件	期末試験及び授業内に課す課題にて評価する。総点が60点以上で単位認定とする。													
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容												
	1	社会的養護とは何か 予習:(90分)「社会的養護」はどのようなことを意味するのか、事前に調べておく。 復習:(90分)自分の身近な生活のなかで「社会的養護」を必要とするまたはそれに類する実際の状況を調べる。												
	2	現代社会に暮らす子どもと家庭 予習:(90分)テキストの当該項目(序章)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)少子・超高齢社会、子どもの貧困、ひとり親家庭、障害児といった子どものトピックスと「社会的養護」の関係を確認する。												
	3	社会的養護の仕組み① 機関 予習:(90分)テキストの当該項目(1章1・2)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)それぞれの施設の仕組みを確実にかつ具体的に(例えば役割、名称、県内のどこにあるのか、)押さえる。												
	4	社会的養護の仕組み② 法律 予習:(90分)テキストの当該項目(1章3及び4)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)関連する機関や社会的養護の背景となる国際条約や法規を確実にかつ具体的に押さえる。												
	5	社会的養護の体系 予習:(90分)テキストの当該項目(2章1)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)施設運営指針や家庭養育・施設養護・家庭養護・家庭的養護、措置と契約の違いを確実に押さえる。												
	6	措置を基本とする施設 予習:(90分)テキストの当該項目(2章2～5)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)措置を基本とする施設の名称や役割を確認する。												
	7	利用・契約を基本とする施設 予習:(90分)テキストの当該項目(3章)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)契約を基本とする施設の名称や役割を確認する。												
	8	社会的養護の歴史①明治期まで 予習:(90分)テキストの当該項目(4章1・2)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)日本内外の社会的養護の歴史の流れ、重要人物と功績を確認する。												
	9	社会的養護の歴史②大正期以降 予習:(90分)テキストの当該項目(4章3・4)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)日本内外の社会的養護の歴史の流れ、重要人物と功績を確認する。												
	10	施設養護の実際①自立支援、治療・支援的援助 予習:(90分)テキストの当該項目(5章1)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)対象児への支援(自立支援や治療的支援)について、確認する。												
	11	施設養護の実際② 親子や地域との関係調整 予習:(90分)テキストの当該項目(5章2)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)施設養護における親子や地域との関係調整について、確認する。												
	12	社会的養護とソーシャルワーク 予習:(90分)テキストの当該項目(6章)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)ファミリーソーシャルワークやライフストーリーワークの必要性を理解し確認する。												
	13	社会的養護と里親支援 予習:(90分)テキストの当該項目(7章)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)里親制度と特別養子縁組について確実に理解できるよう確認する。												
	14	児童福祉施設の運営管理 予習:(90分)テキストの当該項目(8章1・2)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)社会的養護に関するソーシャルアドミニストレーションとそのリスクマネジメントを確認する。												
	15	これからの社会的養護 予習:(90分)テキストの当該項目(8章3)を事前に読み込み、不明な用語を確認しておく。 復習:(90分)倫理やこれからの社会的養護の方向性を確認する。												
教科書・教材	原田旬哉・杉山宗尚編著「図解で学ぶ保育 社会的養護 I」萌文書林													
参考書・参考文献等	小池由佳／山縣文治(編著)「社会的養護(第4版)」ミネルヴァ書房													
履修上の注意等	事前にテキストに目を通し予習して授業に臨むこと。提出物の遅延提出は、原則として受け付けないと考えてください。													
実務経験との関連	実務経験の有無	無												

[2812] 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
社会的養護Ⅱ			演習	増田貴人	2年	後期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
1	15	30		1				○	期末試験	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力				《獲得した能力を総合的に自ら設定し、自ら課題へ適用し、その課題を解決する能力》
	○	—	○	○	○	○	○	○	○	期末レポート
										授業内小テスト
										授業内提出物 66 有
										授業内活動 34 有
										その他
										計 100
										フィードバックの方法
										○
										○
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		社会的養護、児童の最善の利益 グループワーク ソーシャルワーク、保育者としての倫理・資質							提出物・演習発表は採点后可及的速やかに結果を返却する。
授業概要	社会的養護の理念や原則、歴史、体系、制度、子どもの権利、支援・援助の実際について、概説とともに、演習課題を行う。								グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習	
授業の到達目標	社会的養護の理念や原則、子どもの権利といった基本的考え方を理解し、保育者としての役割や援助の実際と結びつけて考えることができる。									
単位認定の要件	授業内に課すレポート課題2本、演習課題の議論や発表にて評価し、総点60点以上を単位認定とする。提出物の遅延提出は、原則として受け取らない。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	社会的養護の理解のために① 予習:(90分)テキスト(1章1、2)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)児童福祉施設入所の意義を確認する。								
	2	社会的養護の理解のために② 予習:(90分)テキスト(1章3)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)特別養子縁組の役目を確認する。								
	3	概説:アドミッションケア① 予習:(90分)テキスト(2章1、2)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)児童福祉施設入所における子どもの問題とその対応について確認する。								
	4	概説:アドミッションケア② 予習:(90分)テキスト(2章3)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)自立支援計画の考え方を確認する。								
	5	演習:児童福祉施設における社会的養護(援助・支援)の内容 予習:(90分)テキスト(3～5章)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)各児童福祉施設における社会的養護の内容の共通する方向性を確認する。								
	6	演習:各児童福祉施設における具体的な社会的養護(援助)内容① 調査とまとめ 予習:(90分)テキスト(3～5章)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)自分が調べる担当の児童福祉施設入所の概要や援助内容を確認する。								
	7	演習:児童福祉施設の援助者 予習:(90分)テキスト(3～5章)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)自分が調べる担当の児童福祉施設に関する専門職とその職務を確認する。								
	8	演習:各児童福祉施設における具体的な社会的養護(援助)内容② 発表 予習:(90分)テキスト(3～5章)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)自分が調べた担当以外の児童福祉施設入所の概要や援助内容、専門職を確認する。								
	9	概説:ソーシャルワークの基本 予習:(90分)テキスト(6章)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)社会的養護の援助者に求められる基本を、保育士や教師のそれと重ねて確認する。								
	10	概説:ファミリーソーシャルワーク:家庭支援の基本とその内容 予習:(90分)テキスト(6章)を事前に読み込んでおく。 復習:(90分)家庭支援の基本や施設入所児童における家庭支援を、保育士や教師のそれを重ねて確認する。								
	11	演習:児童の権利① 予習:(90分)事前に児童の権利に関する条約の内容を再度復習しておく。 復習:(90分)授業で提示された事例について、他の考え方がないか再検討する。								
	12	演習:児童の権利② 予習:(90分)事前に児童の権利に関する条約の内容を再度復習しておく。 復習:(90分)条約の内容をわかりやすく伝える工夫を考える。								
	13	演習:児童福祉施設における援助者の記録と評価① 予習:(90分)授業(7章)の内容を確認しておく。 復習:(90分)授業で提示された事例について、他の考え方がないか再検討する。								
	14	演習:児童福祉施設における援助者の記録と評価② 予習:(90分)授業(7章)の内容を確認しておく。 復習:(90分)自立支援計画の考え方を再度確認する。								
15	まとめ 予習:(90分)事前に指定された課題を準備する。 復習:(90分)社会的養護(援助)の課題について、具体的に確認する。									
教科書・教材	杉山宗尚・原田旬哉(編著)「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ」萌文書林									
参考書・参考文献等	櫻井 慶一(著)「社会的養護(新版)」北大路書房									
履修上の注意等	積極的な受講態度を望みます。									
実務経験との関連	実務経験の有無	無								

【2813】 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
保育実習指導 I			演習	保育士課程委員会	2年	前期	こども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
2	15	30		2					○	
<b>学士力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	
	○	—	○	○	○	○	○	○		○
<b>当該科目のキーワード</b>	≪知識・理解≫		保育実習の意義・目的の理解							期末試験 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 60 有 授業内活動 40 無 その他 計 100 フィードバックの方法
	≪汎用的技能≫		保育実習に向けた目標・課題の設定							
	≪態度・志向性≫		実習生としての自覚醸成							
<b>授業概要</b>	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとして、講義や視聴覚教材等を用いた演習を行う。また、実習施設の理解のために、現場の職員からの講話を聞く機会を設ける。									
<b>授業の到達目標</b>	① 保育実習の意義・目的、実習施設の役割、実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。 ② 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、守秘義務について理解する。 ③ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 実習後には、実習総括・自己評価を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。									
<b>単位認定の要件</b>	授業内提出物・授業内活動・課題レポートの合計点が60点以上であること。									
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容								
	1	保育実習の概要、意義・目的と実習の段階・方法・内容の理解(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)1年次の保育士課程必修科目の内容を復習・整理しておく。 復習:(90分) 保育実習 I A・I B のシラバスと授業資料を基に、各種実習の目標・内容・方法をまとめる。								
	2	保育士としての心構え～プライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重について～(こども発達学科教員) 予習:(90分)守秘義務がなぜ大事なのか、子どもの人権を尊重しない保育士とはどのような保育士か、考えをまとめてくる。 復習:(90分)子どもの人権を尊重した保育をするためには何が必要か、授業内容をもとに考えをまとめる。								
	3	施設実習について(1)～児童福祉施設の役割～(こども発達学科教員) 予習:(90分)児童福祉施設の種類のほか、どのような子どもたちが利用するのか、春森にどれくらいあるのかを調べてくる。 復習:(90分)児童福祉施設を出た後にはどのような支援が必要か、授業内容を踏まえて考える。								
	4	施設実習について(2)～事前の準備、事前訪問、書類の作成、礼状の書き方、細直検査等について～(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)実習施設の種別について、第2・3回の授業内容を振り返って理解を深める。 復習:(90分)実習先に提出する書類の作成を行うとともに、実習実施要項の内容をもとに事前訪問の準備をする。								
	5	実習施設の理解(1)～児童養護施設職員講話～(外部講師) 予習:(90分)児童養護施設の役割・機能、入所児童の特徴について調べる。 復習:(90分)講話から学んだ内容をレポートにまとめて提出する。								
	6	保育所実習について(1)～保育所の一日の流れ～(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)保育所の機能と役割、テリリープログラムについて調べる。 復習:(90分)保育所での各生活場面における子どもの理解方法はどのようなものが考えられるかをまとめる。								
	7	実習録の書き方～施設実習、保育所実習～(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)実習録とはどんなものか、どのような書式があるかを調べる。 復習:(90分) 本学の保育実習録の書式と内容を確認し、何をどのように書くか考える。								
	8	指導案の書き方(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)保育所の指導案はどのようなものがあるか、何を書くものなのかを調べておく。 復習:(90分) テリリープログラムと保育実技に関する学習内容を活かして、設定保育の指導案を書く。								
	9	保育実技演習(手遊び、歌など)(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)年齢に合った手遊びや歌を調べておく。 復習:(90分) 様々な教材を使って実際に実践する。								
	10	実習施設の理解(2)～保育所保育士講話～(外部講師) 予習:(90分)保育所の機能と役割、保育士の業務内容について調べておく。 復習:(90分)講話から学んだ内容をレポートにまとめて提出する。								
	11	保育所実習について(2)～事前の準備、事前訪問、書類の作成について～(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)保育実習に関して必要となる各種書類(個人調査票、評価票、誓約書など)の書式や内容について調べておく。 復習:(90分) 本学の保育所実習に必要な書類を作成し、期限までに提出する。								
	12	実習の段階と目標、実習計画の作成について 予習:(90分)保育実習の計画、実習段階と目標の関係について調べておく。 復習:(90分) 保育実習 I A・I B における実習の計画と目標の設定をする。								
	13	実習の心得～実習の心得、諸注意～(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)実習を行うにあたって実習生に求められることは何か調べておく。 復習:(90分) 実習実施要項や授業資料をもとに、実習で求められることは何か、どのようなことに注意すべきかを考察する。								
	14	保育実習IA事後指導 実習総括・自己評価(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)実習アンケート・自己評価に回答しておく。 復習:(90分) グループワークの内容をまとめ、実習内容について省察する。								
	15	保育実習IB事後指導 実習総括・自己評価(保育士課程委員会教員) 予習:(90分)実習アンケート・自己評価に回答しておく。 復習:(90分) グループワークの内容をまとめ、実習内容について省察する。								
<b>教科書・教材</b>	厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館									
<b>参考書・参考文献等</b>	内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館									
<b>履修上の注意等</b>	配布した参考資料は保管し、予習・復習に活用すること。 実習終了後に2・3年生合同で行われる反省報告会には必ず参加すること。									
<b>実務経験との関連</b>	実務経験の有無	有 (吉田) 幼児教育の現場経験を有する教員が手遊び・歌などの保育実技を指導する。								

【2814】 専門教育科目 保育士に関する科目		授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科								
保育実習 I A		実習		保育士課程委員会		2年	後期	こども発達学科								
単位数	授業回数	時間数	卒業要件					免許・資格			単位認定の方法とフィードバックの有無					
			必修		選択			小学校	幼稚園	保育士						
2				2						○			期末試験			
<b>学力力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目		≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然			≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力					≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し自ら設定した課題へ適用し、その課題を解決する能力》		期末レポート	
		授業内小テスト		授業内提出物		実習施設の評価		60	無							
		大学の評価		40	無	計		100	フィードバックの方法							
		実習録の記入状況を保育士課程委員会が評価し、講評を添付して返却する。		アクティブラーニングの有無(内容)	有											
<b>授業概要</b> 本実習は保育実習 I (保育所・園)として、保育所・園の生活に参加し、直接のかかわりを通して、乳幼児の理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。											保育への参加と補助、子どもへの関わり・支援の実践を通じた学び					
<b>授業の到達目標</b> ① 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③ 既習科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。 ④ 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。																
<b>単位認定の要件</b> 規定日数の実習を行ったうえで、実習施設の評価と大学評価の合計が60点以上であること。																
<b>授業計画</b> (予習、復習の内容・時間含む)		<b>内 容</b>  10日間の本実習については、観察・参加実習が中心になる。 指導内容や日程計画については、実習園の事情や実習生の状況に応じて下記の内容で適宜指導をお願いする。 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助・関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録にもつづく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理  <b>【授業時間外学習の指示】</b> 実習記録の作成を通じて毎日の実習目標の設定とその達成状況への省察を行い、新たに課題を見出すよう努めること。														
<b>教科書・教材</b>		厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館														
<b>参考書・参考文献等</b>		幼少年教育研究所編著『新版 遊びの指導—乳・幼児編—』同文書院 石橋裕子・林幸徳(編)『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』同文書院														
<b>履修上の注意等</b>		体調管理を徹底するとともに、事前訪問時の指導内容を理解した上で準備を整えて実習に臨むこと。実習録・自己評価票等の書類提出状期限を厳守すること。														
<b>実務経験との関連</b>		実務経験の有無	有	(吉田)幼児教育に従事した経験を有する教員が実習期間中に巡回訪問指導を行う。												

【2815】 専門教育科目 保育士に関する科目		授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科							
保育実習 I B		実習		保育士課程委員会		2年	後期	こども発達学科							
単位数	授業回数	時間数	卒業要件					免許・資格			単位認定の方法とフィードバックの有無				
			必修		選択			小学校	幼稚園	保育士					
2				2						○			期末試験		
<b>学力力の分類</b> 当該科目で育成できる主要な分類項目		≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然			≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力				≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し自ら設定した課題へ適用し、その課題を解決する能力》		期末レポート	
		授業内小テスト		授業内提出物											
		実習施設の評価		60	無										
		大学の評価		40	無										
		計		100											
											フィードバックの方法				
当該科目のキーワード		≪知識・理解≫ 福祉施設の役割・機能・業務内容の理解			≪汎用的技能≫ 施設職員との協働				≪態度・志向性≫ 実習状況の省察			実習録の記入状況に関する保育士課程委員会が評価を行い、講評を添付して返却する。			
授業概要		本実習は児童福祉法施行規則に基づく「保育実習実施基準」により、福祉施設の役割を実地に学び、そこに生活する子ども(利用者)や職員との直接的かかわりを通して、将来の保育士としての資質の向上を図ることをねらいとする。									施設利用児・者への働きかけ・支援方法などの観察と参加を通じた学び				
授業の到達目標		①各種福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子ども・施設利用者との関わりと子どもへの理解を深める。 ③既習科目の内容を踏まえ、福祉施設における保育と保護者支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。													
単位認定の要件		規定日数の自習を行った上で実習施設と大学の評価の合計が60点以上であること。													
授業計画(予習、復習の内容・時間含む)		<b>内 容</b>  10日間の本実習については、観察・参加実習が中心になる。 指導内容や日程計画については、各施設の人員や実習生の状況に応じて下記の内容で適宜指導をお願いする。 1. 施設の役割と機能 (1)施設における子ども・施設利用者の生活と保育士の援助や関わり (2)施設の役割と機能 2. 子どもの理解 (1)子ども・施設利用者の観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子ども・施設利用者の心身の状態に応じた生活と対応 (3)子ども・施設利用者の活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や協働 (3)保育の役割と職業倫理  <b>【授業時間外学習の指示】</b> 実習記録の作成を通じて毎日の実習目標の設定とその達成状況への省察を行い、新たに課題を見出すよう努めること。													
教科書・教材		厚生労働省(編)『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館													
参考書・参考文献等		石橋裕子・林幸徳(編)『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』同文書院 田中利則(監修)『事例を通して学びを深める 施設実習ガイド』ミネルヴァ書房													
履修上の注意等		体調管理を徹底するとともに、事前訪問時の指導内容を理解した上で準備を整えて実習に臨むこと。 実習録・自己評価票等の書類提出期限を厳守すること。													
実務経験との関連		実務経験の有無	有	(吉田)幼児教育の実務経験を有する教員が実習期間中に巡回訪問指導を行う。											

